

『三宅村』

平成29年2月14日(火)

10時00分～10時16分

○行政部長 それでは、冒頭、知事からご挨拶をお願いします。

○都知事 おはようございます。今日は、島のほうからわざわざお越しいただきまして、誠にありがとうございます。また、先日のエンデューロ大会、レースのほうでは楽しい思いをさせていただきました。また、フラッグツアーのほうも大変成功裡に終わりにまして、ありがとうございます。これからますます、また三宅島には、これまでの災害を越えて、さらに頑張っていたきたいという思いでいっぱいでございます。

また、都政の見える化ということで、このやりとりにつきましても、ネットで情報公開させていただいておりますので、ご承知おきをよろしくお願い申し上げます。

それでは、村のご要望、課題などなど、時間をどうぞたっぷり使っていただいて、お知らせいただければと思います。都としてもしっかり対応させていただきます。

座ったままでどうぞ。

○行政部長 ご発言をお願いします。

○三宅村長 本日は、このような貴重な時間を設けていただき、ありがとうございます。また、昨年11月には、フラッグツアーで三宅島に来島され、子供たちにパラリンピックの旗を渡していただき、リオの楽しいお話などもしてくださいました。

さらに、オートバイのエンデューロレースは、スタートフラッグを振ってくださいました。おかげさまで大変にぎやかにとり行うことができました。ありがとうございました。

知事は、大臣時代、三宅島へ来島される機会が2回あったにもかかわらず、悪天候に阻まれたと聞きましたが、今回11月は好天に恵まれ、たくさんの村民でお迎えすることができ、また、知事からも親しくお話をしていただき、村を挙げて感動と感謝の1日でした。ありがとうございました。

知事は、かねがね東京の島々の振興に大きな関心をお持ちいただき、各島それぞれの魅力の発掘にお力添えをいただき、私たちは、大変心強く思っているところでございます。

さて、三宅村は、現在、防災島づくり、観光施策、産業振興、人口増対策、保健福祉対策など課題が山積しておりますが、本日は、時間も限られておりますので、特に次の3点についてお話をさせていただきたいと思います。

まず、1点目は、防災減災対策です。津波対策も、噴火対策も、村なりに避難計画を策定し、訓練もしております。一昨年は、都との総合防災訓練も行われ、村民の理解や関心の度合いも高まっているところでございます。20年周期と言われる三宅島の噴火ですが、1983年の噴火から17年目に2000年の大噴火が発生しました。今年は、それから17年目ということになります。

今、本村で一番急ぐべきことは、いつ起こるかわからない噴火による噴石や火山弾から身を守るため、島民や観光客が避難できるシェルターを島内の要所要所に建設することですが、村は財政状況が厳しく、事業費の捻出に苦慮しております。都の特段のご配慮をお願いしたいと思っております。

2点目は、観光振興対策ですが、2つほどお話をしたいと思っております。まずは、都立自然公園施設の整備についてです。三宅島には、過去の噴火による溶岩原や火口の跡、大路池と呼ばれる淡水湖もあり、その周辺は日本一のさえずりの小径と呼ばれ、海外にも知られる有名な野鳥の宝庫になっております。

海には、最北限となるテーブルサンゴの群生、山には、昨年、日本巨樹の会により公認されました、幹周りが日本最大級のスタジイの巨木が発見されるなど、三宅島はまさに地球がむき出しの島と言ってもよい大自然を体感できる島です。このような豊かな自然を活用し、国内外から観光客を誘致したいと考え、都のお力添えをいただきながら、遊歩道や展望台等を整備しているところですが、自主財源の少ない本村においては、なかなか進みません。

プリントの自然公園の図面が行っているかと思いますが、ご覧いただきたいと思っております。そこで野鳥の宝庫、巨樹の原生林となっている大路池の周辺区域から雄山の中腹にかけて、都立自然公園施設を整備していただけたら、有力な観光資源となり、三宅島の活力源ともなります。現在、三宅島には都立の自然公園施設はなく、この実現は私ども村民の悲願でもあります。

次は、キャンプ場の整備についてです。国内でもアウトドアキャンプの人気は年々高まっています。三宅島では、都の園地を使ったキャンプはできますが、専用のキャンプ場がありません。キャンプ専用の施設が整備されれば、噴火前と比べて半減した観光客の増加につながるものと確信します。ここでも都の財政支援をぜひともお願いしたいと思っております。

3点目は、噴火災害からの復興支援です。2000年の噴火により余儀なくされた島民全島避難や、居住規則による放棄、また、帰島後の統廃合などで利用休止となった公共施

設は、村営住宅や診療所、保育園や小中学校など島内に数多くあります。その一部は、知事をご来島の折にごらんになった、中学校体育館を兼用したスポーツライミング施設など利活用の例はありますが、休止施設の多くは火山ガスや塩害による劣化が激しく、景観維持や土地利用の面からも、三宅の大きな負の遺産とも言えます。村の観光施策を進めるに当たっての大きな懸案事項となっております。

知事には、環境大臣時代に三宅の噴火災害廃棄物の処理に国費を投入する英断を下していただきましたが、復興のさらなる後押しとして、これらの老朽施設の解体における財政支援をしていただけたら、三宅村の復興は急速に進むものと思います。

また、先ほど触れたクライミング施設ですが、東京2020大会の事前キャンプ等に利用していただけたら、村の総力を挙げて対応いたします。これは、島しょのみならず、東京都全体の気運醸成に寄与できるものと思います。

近年、国内各地で地震や津波、噴火などの大規模災害が相次いで発生する中、17年前の三宅の大噴火と4年5カ月にわたる島民の避難生活は、国民の記憶から少しずつ薄れつつあるかと思えます。

終わりになりますが、念願の帰島から12年、これまで国や東京都、全国の多くの皆様に温かいご支援と村民のたゆまぬ努力により、復興も徐々に進んでおりますが、まだまだ道半ばでございます。幸か不幸か、三宅島は島しょの中でも開発が遅れていると言われますが、その分、美しい自然がたくさん残されております。これを三宅ならではの魅力ある宝物として活用していきたいと思っておりますので、東京都のご支援を重ねてお願いいたしまして、私からのお話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 村のご紹介も兼ねて伺わせていただきました。確かに2回、三宅村のほうに伺おうといたしましたけれども、どちらも天候の関係で伺えず、今回3回目の、三度目の正直で伺うことができ、本当に達成感がございます。

一方で、村の皆様方が温かく迎えてくれたこと、そしてまた、ボルダリングですね、あの施設もうまくオリンピックの事前などで使えるような、そんなこともつなげていきたいと思っております。

それから、幾つか具体的なお要望をいただきました。私も、今回へりで伺ったときに、ずっと噴火口のところまで見せていただいて、やっぱり地球の何というんでしょうか、自

然の恐ろしさと、それから、何ていうんでしょうかね、えも言われぬ圧倒的な力ということを感じさせていただきましたけれども、まだまだ、この噴火の災害復興事業も続いているというお話でございます。局長のほうから、後でお答えもさせていただきます。総合交付金による支援ということでお答えさせていただきます。

それから、今度は、計算で言うと17年目に、前の噴火から17年目、ということは、あと3年というような、そういう計算にはなるわけでありましてけれども、島しょ特有の災害リスク、地域の特性を踏まえた対策が必要であるということはおっしゃるとおりだと思います。都といたしまして、地域のこの特性に応じました防災力を高める、その取り組みを支援してまいります。

また、避難シェルターのお話がありました。これについては、具体化した段階でご相談をいただければと存じます。

それから、観光でありますけれども、もう、大変、そのままの自然が残されているということは、まさしく宝島の要素を抱えておられると思います。これまでも、富賀浜園地の整備、それから雄山の登山道の復旧工事を実施したわけでございますが、常にこの三宅の特有の自然を活かすということで、何ていうんでしょうか、余りいじり過ぎないといふかな、その辺が按配の難しいところでもありますけれども、観光に資するような施設の整備を都としても協力していきたいと思っております。

それから、この各公共施設の更新整備に係る財政負担でございますけれども、復興支援割で継続支援中ではありますが、市町村総合交付金は、地域の特性を踏まえたまちづくりの事業を推進するという上で貴重な財源でございます。村の財政の需要に的確に応えられますように、今後とも、メリハリをつけて、しっかり対応させていただきたいと。

私のほうから、村長のご要望について幾つかお答えさせていただきました。

○総務局長 それでは、お話にございました、被災した休止・老朽施設の解体撤去に対する財政支援の問題でございます。特に総合交付金の現在の仕組みにおきましては、現地建て替えを伴わない解体撤去費用は対象外となっております。ただ、これまでにも、市町村のご要望を取り入れて効果的で柔軟な支援の充実を図ってまいりました。今後とも、限られた財源を生かしつつ、地域の実情を踏まえた効果的な支援ができるよう、検討してまいりたいと考えております。

○行政部長 村長、何かつけ加えられること等ございましたらお願いします。

○三宅村長 やっぱり、島しょの全体を見たときに、自然に恵まれた三宅島であります。

都立の自然公園がないのは三宅島だけなんです。なぜそう遅れていたのかちょっとわからないんですけども、そういう施設ができると、また観光客の呼び込みも、また一段と高まるのかなというふうに思いますので、ぜひ。

それから、先ほど申し上げましたけども、大路池周辺のさえずりの小径というのは、日本一。自然を壊さないように大路池が一周できるような形で遊歩道を都のほうからつくっていただきました。これは大変好評でございます。そういった意味も込めて、そこから、図面にもございますが、前にレストハウスがあったんですが、ちょうどエンデューロをやったところですよ。あそこまで一帯を、ずっと都立自然公園ということでやっていただくと、随分と違ってくると思いますので、ぜひとも、その辺をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○都知事 このスタジイの、巨木というのは樹齡どれくらいなのですか。

○三宅村長 樹齡については、ちょっと定かではないんですけど、何百年と言われております。そういう巨樹に類する本数が1, 300まで来ているんですね。ですから、噴火前でしたら、相当あったんだろうと言われておりますけれども。

○都知事 やはり、三宅の景色というのが、もう独特ですよ。荒野というか、何というんでしょうかね、やはり噴火の溶岩の流れた後なども、映画のロケなんかにもすぐ使えそうな感じもしますけれども、ぜひ自然を生かした形で、しっかりPRのお手伝いもさせていただきますので。

○三宅村長 よろしくお願ひいたします。

○都知事 今、島々は、それぞれ、私もまだ半分ですね、12のうち7つですかね、伺いましたけれども、それぞれ個性があって、とても魅力的なので、ここはPRの仕方でもあろうかと思ひます。インバウンドの観光客も、最近随分遠くまで足を延ばすようになって、どこに行ったらいいのということで、例えば、多いのが、あれですね、瀬戸内海の直島に行く外国の結構富裕層の方、そこまで足を延ばされたりするんですね。いろんなPRの仕方によって、どういう層のどういう国の人を呼び込めるかというのも、それもマーケティングをきっちりしていくことによって、また村の活性化につなげられるかなと。宝島プロジェクトというのを進めていきますので、ぜひ、頑張ってお願ひしたいと思ひます。

○行政部長 櫻田村長、よろしいでしょうか。

○三宅村長 はい。

○行政部長 それでは、最後に知事から一言お願ひします。

○都知事 今日はまた、ご遠方からありがとうございました。これからもしっかりとコミ

コミュニケーションを取らせていただきます。今日はありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(了)

『新島村』

平成29年2月14日(火)

10時18分～10時40分

○行政部長 それでは、初めに知事からご挨拶申し上げます。

○都知事 おはようございます。今日のご遠方から都庁のほうにご足労をおかけいたしまして、恐縮でございます。新島村の現状、そしてまた、今後の期待、ご要望、伺わせていただくということで、この場を設けております。

新年度予算などにおきましても、これからの東京都政のあり方、数字で示させていただきました。また、島の発展については、宝島プロジェクトというのを今、進めつつありまして、それぞれの個性を生かして活性化を進めるように、連携を取りながらさせていただこうと、進めさせていただこうと思っております。

今日は、ご要望を直接伺うということで、情報公開で、ネットでの放送をしております。ぜひ、率直な意見を含めまして、都へのご要望を直接伺えればと思います。

座ったままで、どうぞ、よろしく願いいたします。

○行政部長 それでは、青沼村長、よろしく申し上げます。

○新島村長 よろしく願いいたします。

まず、私は、課題と解決方法でございますが、まず、全国的に、人口減少、当然どこの島だろうが、どこの県だろうがでございます。それに人口的に我が村のほうも、高齢者率が、65歳以上が、2月1日現在で38.9%という高齢化になっております。それには、人口減少、当然、高齢者が多い場合には少なくなりますので、当然、子供たちから人口を少しずつでも増やすためには、何かしなければならぬと。

現状としましては、婚活事業、当然。あと、子育ての支援事業ですね。それを私が、この行政についてから1年3カ月になりますが、それで始めているところでございます。まだまだ、その実行にはなかなか難しく、島の中では空き家の登録をして、空き家バンクを幾つかやって、少しでも住居をふやして、島外のほうから来てくれる人を少しでも増やして、人口増加につなげていきたいという施策で、今頑張っております。

それには、定住化するために、交流人口も、島と都内の方々との交流が当然必要ではございまして、それで、もう、若い人たちの力を借りながら、少しでも多くの島民が増えるよう、または、都内から色んな人が来て交流できるように、今、頑張っているところでござ

ざいます。

次に、私の島は、小笠原と一緒に有人の島を2つ持っておりまして、当然、新島村の場合は式根島ともう一つありますので、そうすると、行政にかかる費用が特別に二分しますので、片方の島ばかりやっていると、片方の島がどうしても遅れると。当然のことです。

○都知事 人口構成は、どれくらいですか。

○新島村長 大体、うちのほうが2, 800人の総合の中で、隣のほうが550人、当然そのくらいの割合なんで、どうしても、新島のほうで少し人口が多いから、そこからスタートとしていますので、式根島のほうが遅れがちということで、式根の島民からも色々苦情も言われていまして、やっぱり、同じ行政ですので、同じレベルで平等にやっていく、ありますけど、なかなか、費用の面で、行政の資金面で色々考えるところがございまして、この離島の2つ分かれているところを少しでも知事にわかってもらって、少しでも還元できるように努力してもらいたいということでございます。

あと、今、再生エネルギー、よく言われておりますが、私の島は、特に津波の場合、東南海、津波が起きた場合は、30メートル級の津波が来ると。そうすると、当然、今の住んでいる地域がほとんどだめになってしまうという危機感がございます。そうすると、そこで今、電力をやっているのが東京電力さんがやっておりますが、それもやっぱり海の近くの海岸でやりますので、当然、津波が来るとだめになってしまうと。

そのために、国の今、国家プロジェクトで、再生エネルギーの太陽光と風力の実験が始まりまして、この4月ごろには、あと2年半ぐらいかけて再生エネルギーの、貯めるためにどうしたらいいか実験が始まるわけでございます。それがうまく利用できるなら、当然それも利用したい。ただ、島の場合、当然、風力も、波の力ですね、ええ、あります、当然。ですから、各島によっていろんなやり方があると思うんですが、今のところ、うちの島は風力と太陽エネルギーをやっています。それで、それを高台のほうに設置してありますので、津波のときはオーケーなんですけど、今それをやっている実験上、海岸の電力会社のところにやっております。ですから、そこが津波で、やっぱりやられてしまいますので、それを高台のほうに貯蓄するように、これから考えていかなきゃならないと。

当然、実験をやっているところで、どういうふうにやったらいいかということもこれから出てきますけど、これからの課題が結構あると思うんです。防災面にも当然必要なものですから、今、私の島では、低いところをそのままにできればして、高いところに避難、

ないしは、いろんなものを建てていくという考え方で、少しずつですが、進めていきたいと思っております。

あと、極端に言えば、要望でよろしいでしょうか。要望は、当然、市町村総合交付金がどこのところでも当然必要です。今回は知事が特別なご配慮で、多摩・島しょ地区には手厚くいただいているということで、本当にありがたいことでございます。これも継続して、そのままやっていただきたい。

それには、当然、うちは、これから島民を増やすために住居問題を特に、今進んでおりますので、それを解決するために、今の住宅事情で助成金をもらうということは、なかなかレベルがもう決まっていますので難しいと思いますので、少しでも行政としては、人口をふやすために住居を何とかして、都内からでも多くの人をふえてもらうような形をとっていききたいと思っております。ですから、今までどおりでございますが、交付金は、なるべく多目に、どこも当然言うと思いますが、うちの島は特に2つの島を持っていますので、その辺のご配慮もお願いしたいと思っております。

あと、次に、東京都の島で仕事をしていますと、当然、島レベルの感覚になってもらえますので、当然、東京都のこちらの人たちの交流、支援とか、色々教えてもらう、そういう交流の場が必要じゃないかと思えます。島の人だと穏やかになってしましまして、なかなか前に進めていけないという人材確保のために、これからも東京都の皆様と支援を一緒にしてもらいながら交流して、仕事の内容も全部これから都の皆様方の、職員の皆様方のご支援をいただきながら、うちも進めていきたいと思えますので、これからも交流して、色々仕事の内容とか、実際にやりながら教えていただきたいというのが私の考え方でございます。

次に、あと、知事が今、頑張っております東京オリンピック・パラリンピック2020の件でございますが、当然、島も、オリンピックに向けて知事が率先して世界に島のいいところ、素晴らしいところをアピールしてもらって、オリンピックの活性化に向けて島も少しでもお手伝いできればいいと思っております。ぜひ、島のPRも知事が率先してやっていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

あと、今、特定国境離島が、三宅島から南のほうになっております。当然、これから色々決め事ができると思えますが、その間に、要は神津島から大島までの北のほうは入っておりません。その施策の中に置いてきぼりされる場合もございますので、当然、南のほうも北のほうも同じレベルでできればその辺の支援をしていただきたい。南が手厚くな

ると北がおろそかになるという、そういう考え方じゃなくて、今のところ北のほうが入っていませんけど、当然同じレベルで進めていきたいと。島は、遠くても近くても同じレベルで、みんな同じようにやっていきたいと思いますので、その辺のこともこれから先、考えていってもらいたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

私が言いたいのは、特に人口を増やすために住居、今の住居をつくるには、色々施策がございまして、それには色々規制がございまして、なかなか普通のレベルの人が住める住居をつくるには、村独自でないと今のところではできない。それをもう少しでも改善できればいいかなと思いますが、今の状況ではなかなか難しいです。そのために村も今、職員と考えながら、民間の方にも住居を提供してもらいながら、住むところも、行政じゃなくて民間の方も一緒にやってくださいということで、今、住居の、少しでも増えて、人口を増やすために民間と一体となって今やっておりますので、ぜひ、その辺も東京都のほうで少しでも、なかなか難しいとは思いますが、考えていただきたいというのが、私の言いたいところでございます。

あとは、特に、島は今まで東京都のおかげで、私たちは住みよい島になっております。また、地域差、島によっては港がなかなか着けないとかありますけど、少しでもうちのほうも港もよくなっておりまして、だんだん就航率がよくなってきております。それに港が整備されているということは、なかなか早くは行けないんですが、昔と比べると相当よくなっておりまして、このところ、冬型になると西風が強くて、なかなか欠航する率が多いんですが、このところ欠航がほとんどなくなって入ってきていますので、あともう少しやれば、ほとんどなくなってくるんじゃないかなと思っております。これも、東京都の皆さんのおかげで、港がよくなっております。ただ、よくなっていない島もございまして、当然そちらのほうも早くやってもらって、皆同じような、いつでも船が来れるような島づくりをしてもらいたいと思いますね。その辺のご配慮もよろしくお願いいたします。

あと、おかげさまで、この29年度に、うちは光ファイバーの工事がおかげさまで始まりまして、今、着実に準備を進めております。島民の若者が、もう一丸となってそれを期待して待っております。本当にありがとうございました。来年度、29年度、工事をやれて、30年度からやっとなつなるといことになっておりますので、それをあわせてお礼申し上げたいと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 幾つかの具体的なご要望がございました。まず、観光を柱とした産業振興ということでありますけれども、これは、新しく島しょ地域を活用した縁結び観光プロジェクトというのを考えておりまして、一言で言うと婚活ツアーなんですけれども、船旅というのは婚活にはちょうどいい乗り物ではないかと思えます。今これ、検討いたしまして、島しょ全域での観光振興につなげていきたいと考えておりますので、受け手側としていろんな知恵をそちらでも絞っていただきたい。

それから、補助事業として、若干ですけれども、今回も、予算額を増やすことといたしました。島しょ地域の自治体が行っておられる観光施設の整備や情報発信などを支援することで、町村の受け入れ体制づくりを引き続き推進していきたいと思えます。

それから、今、最後、ご指摘のあった光ファイバーですけれども、これはやはり、若い方がサーフィンなどでいらっしゃるわけですね。そういったことも考えますと、この、あと、テレワーク、島に住んでいろんな仕事ができるということを円滑にするためにも、通信環境をよくするというのは、これ必須ということで、前倒しでこの光ファイバーの敷設ということ、これを今回の予算でも盛り込んだところであります。

それから、オリ・パラも、これ、オール東京で進めていけるようにしていきたいと思えます。

それから、さらに住居、住居の点、村独自のというお話だったんですが、ちょっと、この辺のところ、どういうことを意味しておられるのか、後でお聞かせいただければと思えます。

それから、特定国境離島との格差解消でありますけれども、これは国のまさしく主権を守るという観点から、これまで色々検討されてきたものでありますけど、今度、南側と北側でこの格差が生じないようにという、こういうご要望かと思えます。航空路については、重要な交通手段でございますので、その運賃が安くなるということ。これは、この特定国境離島のその問題のみならず、切実な課題であるというふうにお聞きしておりますので、都としてしっかり対応を検討してまいります。

それから、人材の育成ですけれども、都から新島村へは、現在派遣2名、支庁職員による島しょ町村職員への研修の実施などを行っているところでありますので、引き続き、人的支援などを行うことで、市町村の取り組みは後押しをしてまいりたいと思っております。

それから、市町村総合交付金でありますけれども、離島対象に加算した交付額に反映を

行っておりますし、また、離島、山村への重点的支援のための算定項目ということにより、交付額に反映を済ませているところであります。

市町村総合交付金ですけれども、市町村の財源補完としての役割を十分果たしていくことが極めて重要であります。村長からもお話がありましたように、新島の場合は2つ有人島を抱えておられるということで、これがほかの島の自治体ともちょっとプラスアルファということなんだろうと思います。地域の実情を踏まえまして、効果的な支援ができるように進めてまいりたいと考えております。

それから、逆に伺いたいんですけれども、今、風力・太陽光再生エネルギーは、これは島のエネルギー源の確保という点でもプラスですし、CO₂の削減、量は少ないかもしれませんが、これを実験されているということですし、これ、実験というのは蓄電の実験なんですか。

○新島村長 はい。そうです。

○都知事 ああ、そうですか。どんな種類のもので、ガス電池なんですか。

○新島村長 ええ、実験しております、蓄電池を海外からフランス製で2基設置してありまして、そこに全部入ってどのぐらい蓄電が可能か。できれば、8割以上、9割でも入っちゃえばいいのかなという感覚でそれを遠いところからそこまで引っ張ってきて蓄電すると。一旦、その現場の中でやっているところに蓄電したやつを実際にまとめて蓄電する。今の発電所のところにあるんですが。その実験でいろんなパターンがあるということです。

○都知事 ぜひ、その実験、蓄電はやっぱり一番、再生エネルギーの弱点を補う最も効果的な、期待される分野でありますので、いい結果につながるようにしていけばと期待をしているところでございます。

島の人口についても、激減ではないけれども、減ってはいるけれど、でも、若い方々も結構、今、ほかの島などでIターンの人たちがおられますよね。ぜひ、そこは、私たちも宝島の魅力を発見するのをお手伝いいたしますけれども、もう一度、ずっと住んでいると当たり前のことって結構、宝物がいっぱいあるんですよ。そういうことをぜひ村の若い人たちに宝物探しというのを一度やられた上で、そして、こちらから今度はそれに対しての助言をするというのが一番いいですね。外から言われて、これはやりましたというよりは、まず、自ら宝物探しと、宝物磨き、ぜひ、やっていただくように、島の若い方々にも都知事がそう言っていたとお伝えください。

○行政部長 それでは、村長、住宅の確保の関係と、その他補足されることがございましたら、よろしく申し上げます。

○新島村長 知事が言ったとおり、Iターンも考えまして、当然、農業をやりたい方とか、漁業をやりたい方もあるんです。それで、一番困ったところが住居ということで、やっぱり住むところがないということで、そこへ持っていくと、いろんな島に来たい方が来られるというのが若い者との話し合いの中で決まりまして、去年のちょうど12月ですか、若い都内からいろんな方が見えまして、あれは10人ぐらい来たんですかね。それで、グループ3つぐらい、島の方も一緒に入ってグループをつくりまして、新島に住むにはどうしたらいいかという議論がありまして、3パターンで色々考えていまして、その考えた中で、やっぱり、行き着くところは住居になっていまして、やっぱりこれは重大なる問題で、急がなきゃならないようなことかなということで、私の頭の中には、やっぱり住むところ、住むところと、今、頭の中に入っているものですから、それも若い人の考え方が結構反映されまして、当然、民間のほうも、そのために古くなった家を全部改修して住めるように、今、ちょこちょこやっていただいております。それと行政も一緒になってやっていこうということで、今、話が進んでいまして、少しでも早目にしてやりたいかなと思っています。

○都知事 人口減ということは、それだけ空き家があるということですか。かなり古い感じ。

○新島村長 それで難しいのは、島の実情でございまして、空き家があっても盆と正月には帰ってくる。当然、仏様も置いてあると。ですから貸してくれないというのが現状なものですから。

○都知事 では、空き家ではないんですね。

○新島村長 空き家じゃないと、いないけど、そうなんです。そこで泊まっている状態なものですから、それがなかなか、昔から先祖を大事にする島なものですから、大変なものですから、それで進まない。

○都知事 すごいですよね。大三王子神社、それから刑場跡もある。この海岸いいじゃないですか。波も良さそうだし。サーフィンの人って、大体どれぐらい来るんですか。

○新島村長 いや、もうほとんど毎月来る。夏は当然ピークですけど、ほとんどもう連休になりますと、ほとんど湘南でやらないでこっちに来ちゃいます。波が違うということで来ちゃいますので、当然、千葉のほうも波がうちのと違いますので、何か練習会場という

のもあったんですが、なかなか、やっぱり本番のところで皆さんやりますので、それも進められないかなど。当然、7月の終わりには都知事杯のサーフィン大会がございますので、いつも知事にお世話になっておりますので。

○都知事 はい。わかりました。ありがとうございます。

○行政部長 そろそろお時間でございます。

最後に、知事から一言お願いいたします。

○都知事 これからも島の魅力を最大限生かして、活性化に努めてまいりましょう。どうもありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終了でございます。ありがとうございました。

(了)

『国分寺市』

平成29年2月14日（火）

10時42分～10時58分

○行政部長 それでは、冒頭、知事からご挨拶申し上げます。

○都知事 座ったままで恐縮でございます。まず、おはようございます。今日は都庁にまでご足労いただきましてありがとうございます。また、日ごろよりの都政の運営にご協力を賜っておりますこと、改めて御礼を申し上げたく存じます。

今日は、新年度予算案も、これから審議に入るところでございますけれども、今回のこの交付金などにつきましても、ぜひ、皆様方により活用していただいて、都の活性化、オール東京で進めていくという、そういう意図で設けさせていただいたところでございます。国分寺におかれましては、緑ある水の自然環境に恵まれて、史跡などの歴史遺産もございますし、武蔵野の面影を残しておられるところで、大変住みよいところと伺っております。

これから人口の問題、それから産業の問題が大きく変わっていく中で、市の現状と、それから今後のご要望などを直接伺わせていただく機会とさせていただいております。

都政の見える化ということで、情報公開、ネットでこの公開をしておりますので、ご承知おきいただきたいと存じます。

それでは、市の実情、直接市長から伺えればと存じます。よろしく願いいたします。

○行政部長 では、お願いいたします。

○国分寺市長 おはようございます。よろしいですか。じゃあ、着席で失礼いたします。

本日は、こういう機会をいただきまして、誠にありがとうございます。知事におかれましては、先月の1月24日に多摩図書館の開館でお越しいただきまして、その節にも国分寺の現状を一部見ていただいたかと思っておりますけれども、今、知事のほうからお話がありましたように、国分寺市の今の現状は、緑が生かされ、また、歴史遺産も国分寺のお寺をはじめとしてたくさんございまして、住環境としては、非常に恵まれたところで、我々としても、農地をはじめとして、緑の保全に尽くしていかなければいけないというふうに思っているところでございます。

現状の課題と申し上げますと、課題というより現状なんですけれども、今、国分寺市は、人口が増加しております。一般的には5年ぐらいで人口減少になっていくのではないかと言われておりますけれども、直近の状況を見ますと、どうやら私どもは、10年先ぐらい

までは人口が増加するかなというふうな見通しを持っています。ただ。

○都知事 12万人。

○国分寺市長 はい。直近の今年の1月1日現在でございますけれども、12万600人を超えまして、少しまた増加している状況でございますし、また、北口の再開発をはじめとして、マンションが随分できておりまして、今後とも人口増加がしばらく続くだろうというふうに見ております。

ただ、高齢化が進んでおりまして、人口増加の中身を分析してみますと、やはり、高齢者の増加、生産人口が多少維持できるか、それとも減っていくかというような状況でございます。子供の数も一時、こう、減ってまいりましたけれども、ここ0～1歳ぐらいが、保育園のほうに力を入れましたので、その開設も含めて多少増えているかなという状況でございます。

そういう中で、今、課題で一番大きいものは、やはり公共施設の老朽化ということでございます。私ども、大体60%以上が築30年を経過した施設でございます。こういうものをどう計画的にこれから改修、複合化、多機能化を図っていくかということが、これから大きな課題でございます。今、計画づくりに着手をしているところでございます。私どもの予算規模は、大体400億から500億の間でございますけれども、この公共施設の改修に向けては、大体1,400億ぐらいかかるのではないかなというふうに思っています。ですから、そういう意味でいきますと、一般財源を投入するに当たって、非常に計画的に長期にわたってやっていかなければいけないというようなことがございますので、このあたりが大きな課題かなというふうに思っております。

その一部でもあります。庁舎が、もう既に昭和39年に建てて、耐震化に問題があって取り壊しをいたしました。8年ほど前に取り壊しをして、今、プレハブの仮庁舎という形で運用をしておりますけれども、そういう庁舎でありますので、教育機関が分散していたり、福祉機関が分散していたり、非常に分散庁舎となって今ありますので、業務の効率化の面から見ると、非常に無駄が多いということになっておりますので、この庁舎の建設もこれからやっていかなければいけないというふうに思っています。

また、先ほどちょっと人口の増加と申し上げましたけれども、生産人口がどれだけ維持できるかというのが、これからの課題でございます。これは税金に直結いたしますので、この辺を大きな課題として捉えているところでございます。

そういう中で、今日の要望ということで幾つか挙げさせていただきたいと思っております。

す。

1つには、緑と水とがすばらしいまちではあるというふうに思っておりますけれども、実は、私ども、国分寺崖線というのがございまして、そこから湧水が出ております。これが、結局、野川につながっております、野川の源流でもあるんですね。そういう中で、これから野川の整備を、従来からお願いはしているんですけども、隣の地であります小金井市さんのところまでは、鞍尾根橋というんですけど、そこまでは何とか整備が進んできているんですけども、私どものところがどうしてもまだ整備が進んでいないということで、この整備をぜひお願いさせていただきたいというふうに思っているところでございまして、ちょっと遠くて申しわけないんですけど、ご覧いただくとですね。

○都知事 こちらにあります。

○国分寺市長 ありますか。じゃあ、それを見ていただければと思いますけれども、今、写っている写真が、これが当市における今の状況でございます。

○都知事 これはどうなってるところ、何をこう、押さえているんですか。この半分の。

○国分寺市長 そうですね。上から、こう、被せてあるような形にはなっていますけれども、要するに、これは何かこう、人が入ったりしたときに、ここから転落を防止するとか、そういう意味でやっているだけであって。

○都知事 これが。

○国分寺市長 はい。それが、そうですね、川の上にかけてあるだけですね。ですから、コンクリートをこう、渡してあるだけになっていますので、暫定的な処置だろうというふうに思います。

それで、これを今後、その次に写っておりますけれども。

○都知事 これは綺麗で。

○国分寺市長 はい。こういう整備が、今、小金井市の鞍尾根橋の先はやられておりますので、こういう形でぜひ整備をしていきたいというふうに思っております。この辺に、ちょっとお力を頂戴できればというふうに思っております。

○都知事 この野川ってどういう河川なんですか。

○国分寺市長 最終的には多摩川のほうまで、はい、合流しておりますけど、これが一つでございます。

それから、次が、この間もお越しいただきましたけれども、多摩図書館のところ。開館以来、多くの方に訪れていただきまして、あとは交通の便をどう確保するかということ

で、あそこでもちょっとお話をさせていただきましたけれども、西国分寺の駅からの、7分ぐらいの距離でございますけれども、西国分寺の東口の開設というのをぜひ、JRさんに私ども働きかけておりますけれども、ちょっとこの辺がまだ進んでおりませんので、東京都にもお力を頂戴できればありがたいというふうに思っているところでございます。多摩図書館からそれを、東口の広場はもう確保してありますので、それができることによつて、多摩図書館からもう本当に7分が2分になるかなというような状況でございますので、この辺の開設についてお力を頂戴できればありがたいというふうに思っています。

それから、各市町村それぞれに同じような課題を抱えていると思いますけれども、保育園の用地でございますね。こちらについては、私どもも努力してまいりまして、ここでまた29年度に3園ほど新しく開園をいたしまして、300人ほどの定員を増やすという予定にはなっておりますけれども、用地の問題等がございまして、知事が掲げておられる保育園の用地の確保ということの中で、私ども都営の住宅が何か所かございます。そのあたりのところをぜひ、また、具体的な場所については、また後でご報告させていただきますけれども、幾つかございますので、その辺についてご配慮いただければありがたいというふうに思っております。

それから、4点目でございますけれども、今、多摩図書館の南に、今度は公文書館がという予定になっています。それで、またその南側に、実は今、小金井の特別支援学校の仮校舎がございますけれども、そちらのほうの用地を国分寺市としては取得をさせていただきたいというふうに思っております。先ほど申しあげましたように、公共施設等の関係で、やはり用地が今、不足しておりますので、この特別支援学校が移転した後、でき上がって仮校舎がなくなった後の用地の確保に、またご支援をいただければというふうに思っております。

○国分寺市長 資料のところ、今申し上げたのは、この真ん中あたりになります茶色の部分でございますけれども、都立多摩図書館、その先に都立施設用地と書いてありますけれども、ここが公文書館の予定地でございます。その南側のところが、今、都立の小金井特別支援学校の仮校舎になっているということで、ここの整備が終わった暁には、ここを取り壊されるということでございますので、私どもが前から要望はしているんですけれども、この辺もご配慮いただければありがたいというふうに思っております。

それから、最後になりますけれども、国分寺市は、面積的にも非常に小さな面積でございます。ですから、隣接市とともに広域連携をこれからも進めていかなければいけないと

いうふうに思っております。今、実際には図書館の共同利用だとか、それから体育施設の共同利用を一部の市と行っております。こういう取り組みをこれからも進めていかなければいけないというふうに思っておりますので、この辺の課題についても、ご相談をさせていただきながら、都のお力を頂戴できればありがたいというふうに思っておりますので、この辺のことについてもご配慮賜ればありがたいと思っております。

以上、要望事項含めてお話を申し上げました。ありがとうございました。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 詳細なご説明ありがとうございました。また、先ほどの多摩図書館に伺った際に、公文書館、そして特別支援学校の話も耳に入っておりましたので、大体、土地カンといいましょうか、1回だけですけれども、伺ったことで、大体ご説明はわかりました。

それで、まず、幾つかのご要望、アトランダムでお答えすることになるかと思えます。野川の整備でございますけれども、周辺のまちづくりと川が一体となった整備に向けて、地元の懇談会を開催しておられると伺っております。引き続き、市の皆様方と連携をいたしまして、事業化に向けて取り組んでまいる所存でございます。

それから、特別支援学校の仮設都有地、この譲渡でございますが、市の具体的な意向を改めてしっかり把握させていただいて、都の財産処分の規定などございますので、適切に対応させていただこうと考えております。

それから、東口の整備でありますけれども、これについては、鉄道の事業者や皆様方と連携しながら、自由通路の整備であるとか、駅のバリアフリー化などに取り組んでまいりましたので、今後、この件についても、関係者の皆様とともに必要な対応を図ってまいりたいと考えております。

それから、人口動態が、生産人口が今後どうなっていくかというのも、自治体運営にとっては一番基本的な、基礎的な課題だと思います。29年度の予算額でも、子供を安心して産み育てられる環境の整備といたしまして1,630億円、総額ですけれども、それと、高齢者の安心して暮らせる社会の実現ということで、587億円積んだところでございます。

子育ての支援、そして高齢者の施設などについては、29年度予算でも、今申し上げたような額を計上しておりまして、それぞれ今後とも地域の実情を踏まえまして、適切に対応させていただきたいと考えております。

それから、その際の都営住宅の敷地内公園などを活用した保育施設の整備でありますけれども、これも地域の実情を踏まえまして、候補地となる都営地の制約を検討させていただいて、できる限り保育所などの整備について支援をさせていただきたいと考えております。

それから、個別の事業などでございますが、公共施設の老朽化の点などは、まあまあ大体、そうですね、戦後の復興からそれぞれの自治体から、大体同じような波で来るんだろうというふうに思います。また、市長は建設会社におられたので、その辺の積算などはすごくお上手なんじゃないかなと思ったりもしますけれども。これらについても、扶助費の増加とか、老朽化した公共施設の更新などは、厳しい財政状況の中でご苦労があるということ承知いたしました。財政需要に的確に応えられるように、東京都といたしましてもメリハリをつけてしっかり対応させていただきたいと考えております。

それからまた、広域な連携でありますけれども、やはり、それぞれ近隣のところ、自治体とうまく連携していただくことによってコストの縮減など、お互いにプラスになることも多かろうと思いますので、市長のリーダーシップにも期待をし、また、関係の市町村と連携した上で、都民サービス向上の観点から、都といたしましても積極的に支援をさせていただきたいと考えております。

○行政部長 そろそろお時間でございますが、何かつけ加えること等ございましたら。

○国分寺市長 ただいま知事のほうから色々お答えを頂戴しまして、本当にありがたく拝聴いたしました。ぜひ、私どもとしても、自治体として精いっぱい努力してまいりますので、ご支援を賜ればありがたいと思っております。ありがとうございます。

○行政部長 それでは、最後に知事からお願いします。

○都知事 これからもしっかりと連携をとりながら進めさせていただこうと思っております。ご活躍、期待いたしております。ありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(了)

『調布市』

平成29年2月14日（火）

11時00分～11時16分

○行政部長 それでは、冒頭、知事からご挨拶をお願いします。

○都知事 座ったままで恐縮でございます。本日も都庁までご足労いただきましてありがとうございます。また、市長会等々で色々と連携をとる、リーダーシップを発揮していただいて、誠にありがとうございます。

調布市は2020年のオリンピック・パラリンピックに加えて2019年、もう来年、再来年、ワールドカップなどなど、いろんなイベントが控えておられるかと思えます。大変熱心にスポーツ振興、文化国際交流などに取組まれておられることに敬意を表したいと存じます。

また、これからもまちづくりという一番大きなお役でご活躍されることを期待しておりますが、今日は都政の見える化ということで、また、ネットでの中継をいたしておりますのでご了承いただきたいと存じます。

新年度予算を組み立てさせていただきました。また、28年度の予算額でも、500億ということを見せていただいて、より皆様方が、市の発展、そして持続可能な発展を目指されるように、都としてもバックアップしていきたいという表れでございます。

今日は市長から、直接ご要望、そしてまた課題、何度も伺った部分もあろうかと思えますけれども、改めて、直接伺わせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 それでは、長友市長、ご発言をお願いいたします。

○調布市長 まず、このような場を設定していただいて誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げますのと、東京都には各自治体、全てとはいえ、我が市は格別にこの10年間、10年強、お世話になる部分が多かったということを御礼申し上げたいと思います。

それは、取りも直さず、私どものハード面のまちづくりということで、一言で申し上げますと、私、早いもので15年目になるのですが、10年強の間にわずか3キロぐらいの京王線沿線で、中心市街地の整備、その核となるのは、京王線の地下化だったのですけれども、この工事が終わってもう4年半たちます。その以前から、簡単に申し上げますと、

再開発事業を6カ所、土地区画整理事業を2カ所と、10年強の間に3キロぐらいの間で8つの開発事業を同時進行させて、ほぼ全て終わりましたけれども。その全てにおいて東京都の本当に大きなご助力をいただいたということでまず感謝を申し上げます。

今後のことということで、手短かに申し上げますと、その中の保育園待機児の問題、これはもう、うちだけではなくて、多摩の各自治体とも、なかなか苦戦しているところが多い問題でございますので、ほかの対話の中でも出てきているかと思えます。私が市長になってからだけでも、定員は2,600人、この5年間だけでも1,500人くらい増やして、まだ500人、800人という計画を持っているのですが、それでもなかなか追いつかない。確かに、人口が増えていますし、未就学児が増えております。それから見逃してならないのは、それは学童クラブ待機児予備軍ですので、その方たちが小学校に入ると、これまた同じことが起こってきているということで、保育園にこれだけ熱い思いで、多岐にわたる支援策を講じていただいているのに加えて、学童クラブのほうもぜひよろしくお願ひしたいと思います。それはほかの自治体と共通して。それ以外に調布がということでございますので、あと2点書かせていただきました。

1点目は、知事にも触れていただいた19年・20年問題ということでございます。

これに関しては、2つ申し上げます。簡単に言って、1つは、私ども、予定をされているはずであろう数年間以内には、あるであろうインフラ整備等、加速度をつけて、19年・20年に向けて、Wi-Fi環境ですとか、それから、多言語対応のいろんな表示、掲示でございますとか、バリアフリー対応だとか、会場付近、また、主要な駅のあたりでいずれはやるはずであったものが、少しでも前倒しになればありがたいかと、これが1つです。

もう1つは、我がまちは非常に僥倖にあずかって開催地ということで、味の素スタジアム及びその周辺の、今の武蔵野の森総合運動施設が使われますけれども、これを積極的に私も働きかけ、多摩全体でも言っておりますが、何とか1点のポイントにとどめずに多摩全体の振興に、もちろんスポーツ振興、国際交流、産業発展、色々ございますけれども、結びつけていきたいと、これは市長会としても、具体化してお願いしてまいりますので、ぜひよろしくお願ひしたいということであります。

3点目が、もう1年半たつのですが、小型機の事故がございまして、大変不幸なことに、死亡者も出ております。これに関して、国土交通省の原因究明の最終発表がまだないのですが、もうそろそろ、それも発表されると思えますので、東京都で、今ご検討いただい

いる、その後の万全の安全対策、それから、小型機の今後の扱いをどうされるのか、あそこにまだ20機前後の小型機が、プライベート機がございます。これをどうされるのか。それから、3点目が、被害を受けた方に対する、色々な支援救済策ということで、これまでお願いをしておりますが、ぜひ今後よろしくお願ひしたいと、うちの固有の問題を含めて、そんなところでございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事から、お願ひいたします。

○都知事 ありがとうございます。

待機児童対策については、大変積極的に取り組んでいただき、それがまた、新たな待機児童を生むという、この人口問題に対しては、それはうれしい悲鳴だという一方で、色々費用もかさんでいく、そのあたりはオールジャパンで考えるべき課題でもございますが、そういう中で、都といたしまして、子育て支援の実施主体であるのがまさしく市でいらっしゃると思いますので、地域の実情に応じまして政策を展開できるように、今回は、全体子育て関連で400億円積み増しをしております。そしてまた、子育て推進交付金という形で、予算案で192億円、これは前年比で4億2千万円積み増しをしております、現場の皆様方をバックアップできるような、そういう思いでつけたところであります。それから、乳幼児や義務教育就学児の医療費についても、こちらのほうも、福祉政策の一環として実施をすることといたしております。

それから、お話がございました、調布の飛行場の件でありますけれども、伊藤達也さんからも、この点については、重々言われております。これまでの経過から、それから、今、何が起こっているかは市長のほうがよくご存じかと思っておりますけれども、万が一の事故の場合、被害者が迅速に救出されるための具体的な方策について検討しているところでございまして、引き続き、調布飛行場の安全対策の強化については、しっかり市長とも協議しながら丁寧に進めてまいりたいと思っております。

今日は、市の市長さんと、島の方々のお話を伺っていて、やはり、調布飛行場から飛んでいるということで、調布飛行場の果たしている役目、大変大きいものがございますので、そういったことで、調布飛行場の安全の確保というのは島の命運にもかかってくるということで、しっかり取り組ませていただきたいと思います。

それから、オリンピック・パラリンピック、そしてまた、ワールドカップを控えて、特に東京の観光公式サイトで、多摩の地域の自然文化など、しっかりと紹介をさせていただ

きたいと思いますし、それから、先ほどおっしゃっていましたが、サイネージとか多言語化、これについても、東京全体としてのアプリケーションの、もっと磨きをかけるであるとか、今この分野、日進月歩なのですが、ハード面の確保ということは前もって行っておかなければならないと思いますので、それもオリ・パラのほうでも進めていくようにいたしております。

それから、スポーツ関連は、もうお話があったことと思いますけれども、オリンピック・パラリンピックの関係で申し上げますと、今度の29年度の予算では、インバウンドの方々の受け入れ体制の整備、障害者スポーツの振興と施設の整備ということで、市が実施なさるソフトとハードの取り組みに対しては補助制度を拡充しております。今色々ご要望もいただいておりますけれども、いずにせよ、オール東京で開催の気運をしっかりと盛り上げてまいりたいと考えております。私のほうからは以上です。

あ、そうそう、交付金に対してでありますけど、改めて申し上げることになるかと思いますが、ラグビーのワールドカップと、2020大会の会場を抱えておられる調布市は、大会の成功と、その大会の成功だけでなく、その先も見据えた形でのまちづくりなど、多岐にわたって、今お考えだと思います。でも既にこの市長の期間に随分再開発なども遂げておられるということで、積極的に取り組んでおられる実績がおりだと重々承知しておりますけれど、また、市町村などにおける緊急的な財政負担などについても、市町村総合交付金も活用して、ご要望に応えたいと、このように考えております。

○行政部長 補足されること等ございましたら。

○調布市長 ありがとうございます。御礼とともに手短かに。

保育園の問題については、それだけのテーマで会合が既にありまして、そのときも申し上げておりますが、私どもの当局、その担当部署に言わせても、東京都の講じようとしておられる対策は非常に実践的であって、幸い我々は少なからず採用させていただきたいと思っているということで、まず感謝を申し上げたいと思います。

それから、小型機のことにつきましては、本当にまだ原因究明が、もう2年がそろそろ経とうとするのに、なされないもどかしさはございます。その間に東京都も、自家用機をどうするのかということは、一定のことを考えておられるというのは聞いております。

それから、さっき申し上げた救済策なのですけれども、それも一定のことを、今お考えだというような話を少し聞いております。ただ、それは多分、違うと思うのですが、その何か救済策、貸付金等を考えたときに、あの事故は対象にならずに、今後のというような

ことを小耳に挟んでるのは、我々としては誠に、もしそれが本当であれば、少し意見を言わせていただかざるを得ないというふうに思っております。

それから、オリンピック問題について、本当に、19年のラグビーも含めて、色々我々お世話になっておりますし、またこれからもいい議論をさせていただきたいと思っております。

この間、市長会にも来てご説明がありました。一定の、そのときに申し上げました、まさに今、講じておられる補助金の問題については、額と率をもっと上昇させていただければそれにこしたことはない。それから、今、対象となっていない、例えば体協がやる事業などというのは対象になっていないのですが、もっと広範に間口を広げていただきたい。それから、そこにおいては、我々は一定の、多摩川の近くで複数の自治体の集まった、一定の話し合うグループを持っているのですが、そういうふうに色々な単位の、多摩といっても集まりがございますから、そういうものをくくったところにも目を当てていただければ我々ももっとこう一つの自治体にとどまらないパワーが出てくると、そういうふうに思っております。

交付金等、総合交付金も含めて、非常に毎年色々配慮していただいているので、感謝に堪えない次第であります。今、申し上げているようなテーマの近未来を捉えて、またきめ細かく、お話し合いを今後とも継続させていただければ、全くありがたいと。とりあえずそのように申し上げます。

○行政部長 よろしいでしょうか。それでは最後に、知事から一言お願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。

調布飛行場の点については、どのような形で、今、進めており、また、事故の結論というのはまだ出ていない中で、こちらとしても、ちょっと歯がゆいところもあろうかと思えます。実際に家屋を壊された方々にとっても、早くしてよという思いは当然あるかと思えます。どういう形で、遡及されないのかされるのか、一番大きな課題ですけれども、その辺のところ、またよく精査いたしまして、そして進捗状況も含めて、市長のほうにはお伝えするようにいたしたいと考えております。

それから、多摩の中でも色々市との連携があると思います。そういった皆様方との連携なども含めて、個々の市の場合と、それから市同士が連携して色々やってらっしゃいますよね。そのお話もお伺いさせていただければと思います。これからもコミュニケーションを密にしていきたいと思っております。

○調布市長 ぜひそういう会合に、お時間が悪くない時点で来ていただくと我々はありがたい。

○都知事 あとはやはり待機児童の問題も、やはり現場の声をきっちりと受けとめて、こちらが用意した予算がいかにも有効に使われ、もしくは使い勝手が悪い、色々現場の声をやっぱり聞いてないとだめだと思ってますので、またそのための会合も開くことにもなるかと思えます。またそのときにはお伝えさせていただきたいと思えます。

○調布市長 ありがとうございます。先ほども申し上げたように待機児童対策は、本当に現実的だと担当部署も感謝しております。

○都知事 ありがとうございます。これからも頑張ってください。ありがとうございます。

○行政部長 それでは以上をもちまして、終了させていただきます。ありがとうございました。

(了)

『狛江市』

平成29年2月14日（火）

11時18分～11時34分

○行政部長 それでは、冒頭、知事から一言、ご挨拶をお願いします。

○都知事 おはようございます。座ったままで失礼をいたします。本日都庁までご足労おかけいたしまして誠に恐縮でございます。また都政運営に日ごろよりご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

今日は新年度予算も案ができ、そしてこれから審議に入る。そして皆様方も新年度に向けてさまざまなご準備をされるということで、改めて直接皆様方の市の抱えておられる課題と、そして将来の展望、さらには都へのご要望を伺うということで、日本一安心して安全なまちづくりを進められておられるということで、セーフシティ、そのモデルとなっていたきたいという思いで、今日はご要望を伺わせていただきたいと存じます。

都政の見える化というのを私の柱にしておりますので、ネットで中継しておりますので、ご了解いただきたいと存じます。ではどうぞ、よろしく願いいたします。

○行政部長 それでは、高橋市長、ご発言をお願いします。

○狛江市長 今、知事のご発言にもありましたように、狛江は全国に790ほど市がありますが、その中で2番目に小さな市です。そして一方では、全国で4番目に人口密度の多い市でありまして、本当にあの空地という空地って本当に見渡してもない、上空から見れば本当に明らかにわかるぐらいなのですが、そういうような過密状態であるということとを逆に一つの強みとして、顔と顔の見える関係が作りやすいじゃないかと、そういうことで、日本一安心して安全なまちづくり、できそうだなということで、今色々と施策を進めているところであります。

今日はお疲れでしょうから、都立公園の誘致問題一本に絞って、お話をさせていただきます。

○都知事 疲れていないですよ。全然。

○狛江市長 時間も5分程度と言われておりますので。

○都知事 いえいえいえ。

○狛江市長 よろしいのであれば、続けてまたお話は差し上げますが、なぜその都立公園かというお話なのですが、市内の市立の公園も含めて公開土地的なものがほとんどあり

ません。したがって30年以内に起きると言われています首都直下型地震、起きた場合の逃げ場というのは多摩川の河川敷しかありませんので、多摩川の河川敷も冠水してしまうと逃げ場にはなりません。そうすると、狛江市民をはじめ付近にお住まいの方々も、ほとんど逃げ場がない状態で、やっぱりいろんな災厄を受けるということになりますので、それを何とかしたいということで、私も4年ほど前から市長をやっておりますけれども、最初のときから、その要望をお届けに上がっています。今日ご同席の副知事それから局長、部長、皆さん、その点については、その事情についてはよくご存じのはずだと思います。

どういうふうに、その都立公園を誘致すればいいのかというのは、なかなか難しい話ではあるのですが、ただ幸いにも20.3ヘクタールの、戦前に都市計画決定された、いわゆる防空緑地というものがございまして、そこには幾つか民間の建物が建っているのですが、受け皿があるものですから、そうすると都市計画の手続が要らない。そういうこともありまして、4年ほど前からいろんな働きかけをさせていただいて、長期ビジョンの中には、170ヘクタールの都立公園を新たにつくって整備計画をつくっていくというところがございまして、それも私どもの要望活動を一定程度評価いただいた上での文言ではないかなというふうに勝手に解釈させていただいています。

その上で、東京都市長会の来年度予算に向けての要望の中でも新規な要望として、多摩26市の中に、6市ほど都立公園がない市があります。私も公園行政やったことがありますので、よく知ってるのですが、都内には80ほど都立公園があるにもかかわらず、これも私に言わせれば、一つの、三多摩格差の一つではないかなというふうな思いもあります。したがって、一応そういうような形で条件も整えつつありますので、しかも今回、知事の実行プラン、拝見しましたけれども、考え方としては都の長期ビジョンを実現を加速化させるという思いも込められているというふうに聞いておりますので、ぜひこの点について改めてご配慮いただければありがたいなと、そういうふうに思っているところであります。

それから、狛江市はまだ人口がふえています。この二、三年の動きを見ますと、かなり大きな動きがございまして、約1万人の人たちが転出して、その後1万2千人以上の人が入転してきています。人口増加率という点だけで見れば、全国の市町の中での増加率というのはトップ10に入るぐらいの増加率なのですが、その内訳は、新たに入ってきている人たちの多くは、子育て世代です。したがって待機児童問題、これは狛江市にとっても避けては通れない問題であります。

一応、昨年の当初に142人の待機児童が発生しましたがけれども、来年度に向けましては255の定員を新たに確保して、何とか乗り切れないかなというところでありまして、まだまだその勢いはとまりません。今、保育所の運営費というのは、国のほうで定めた基準というのは非常に現実離れして低いものですから、都や国の補助をいただいても、つくればつくるほど私どものように地方交付税の交付団体にとっては首が絞まるだけなので、どこまでつくれるかなというところで、いろんな工夫をしながら、しのいでるところであります。そういつまでもしのげる話ではないので。一つは、国基準のおかしさを私どもも発信しておりますけれども、知事のほうからも発信いただくと同時に、子育て交付金とかそういった補助金も含めてですけど、お手伝いいただければありがたいというふうに思っているところでありまして。

それから、事前にお知らせしているお話ではなくて、これはとりあえず受け流していただいているのですが、つい先ほど福祉局関係の会議に出てまいりまして、ちょっと紹介してきたのですがけれども、これは選挙にかかわるものです。つまり、どういうことかという、発達障害の方、それから知的障害の人たちの公職選挙の支援というものをここ数年狛江市は進めてきておりまして、実はそのマニュアルがかなり精緻化できたものですから、実際に本当の選挙で試したのは昨年の狛江市長選挙であったわけで、そこで発達障害の方、知的障害の方、数としては20人ちょっとぐらいなのですが、実際に選挙に参加されたという実績が新たに生まれています。

それを見て、狛江市の手をつなぐ親の会の方々が、このマニュアルは大変すぐれているので、ビジュアル化したいということで、手をつなぐ親の会の方々がそういうDVDをつくるということを全面的に、今回、市も支援しまして、15分ほどにまとめたDVDでありますので、ぜひ知事にもちょっと見ていただくと、数の点では狛江市の実績としては大したことはないかもしれませんが、やっぱり知的障害の方、それから発達障害の方も選挙に参加できるんだという、一つの発信ができるのではないかなということで、実はそのDVDをお持ちしましたので、野田さんにお預けしておりますので、よろしい時期にご高覧いただければありがたいというふうに思っておりますので。

事前にこれは何も言っていない話をちょっとイレギュラーにしてみましたけど、そういうことで、狛江の課題はまだまだあるのですが、余り多く言ってもちょっと分散してしまうといけませんので、この程度にしておきたいと思いますが、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

○行政部長 それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。DVDは後ほど拝見させていただきます。基本的にあれですか、保護者が付き添うような形。

○狛江市長 はい。実は、今の公職選挙法の縛りでは、いろんな縛りがありまして、実際に代理投票というのは、保護者とか親はできないのです。要するに、狛江市におきましては、市役所の職員が全部研修しまして、このマニュアルを全部、叩き込んである、というような言い方は悪いのですが、身につけていますので、実際に支援が必要になった方には、すぐにそういう人たちが駆けつけられるようになっていて、実際に困らないように、そういう知識がなければ、支援する人たちがまず戸惑うところが全国的に多いと思うのです。狛江市においては、どこの投票所に行っても速やかに支援ができるという形になっていて、今やっぱり公職選挙法上のバリアというのは、投票行動におけるバリアと、選挙情報に関するバリア、これはもうたくさんあるわけで、それをクリアしたものが今回のDVDとしてまとめてあるということでもあります。それを実際にどういうふうクリアしているかというところをお示ししたのが今回のDVDであります。

○都知事 拝見させていただいて、参考にさせていただきます。

○狛江市長 ありがとうございます。

○都知事 それから、最初ご提案がありました、和泉多摩川緑地の都立公園化ということでもありますけれども、反対の住民運動があったり、それから大規模土地所有者の協力が不可欠であるなどなど、まだ課題は多いというふうに聞いております。もともとが防空緑地であったということから、防衛省関係の施設等もあるということ、元防衛大臣なもので、そのあたりどう確保するかということも一つの課題かと思えます。課題をちょっと整理をさせていただくということと、所管のほうにしっかりその指示をしておきますので、ご要望として承らせていただきます。

それから、子育て人口がふえているということは喜ばしくもあり、負担も多くなりということだと思います。ただ、そうやって、狛江のこの子育て中の家族に対する信頼感が人口増につながっているのではないかと思います。その分の負担でありますけれども、今回の予算においても、施設型の給付ということで、保育所運営費の都の負担分、4分の1くらいありますけれども、今回は29年度の予算案で前年度比で53億でつけまして、306億まで上乗せをいたしております。子ども・子育て支援施策の強化と推進ということで、恒久的、安定的な財源は十分に確保できるように、今後とも国にも提案を要求していきたい

いと考えております。

おっしゃっている国の基準というか、定義というか、このあたりについては色々と、とり方によってというか、都合によってみたいなどころがあるのですが、働きたいけれども働けないというお母さんたちが多いことは確実なわけで、いろんな事情があることも、背景は人それぞれではありますけれど、多くのお母さんたちが働きたいけれども、子育てに専念をするしかない、そういう豊かな時間も時には大切なのかもしれませんけれども、このあたりの課題を解決するのは日本の課題と言ってもいいと思っております。

それから、待機児童の解消対策には、さっき255人増やすとおっしゃっていた。

○狛江市長 255人です。

○都知事 大変大きな目標を立てていただいて、ありがたく存じます。市町村の緊急的な財政負担などについては、総合交付金のほうで活用していただいて、ご対応いただければと、こう思っております。

これからも、市の、一番小さな市ですか、2番目。東京で一番小さな市。

○狛江市長 全国で2番目です。蔵について2番目です。

○都知事 そうなんですか。コンパクトだということね、その分。

○狛江市長 そうです。

○都知事 なるほど。コンパクトの良さもあろうかと思しますので、生かしていただければと思います。

○狛江市長 1点だけいいですか。

先ほど反対署名があるとおっしゃられたのですが、署名の中身を見ていただくとわかるのですが、ほとんど反対署名した人たちの大半は市外の方で、それから、実際に署名された市内の方も、聞いてみると、無理やり書かされたという方も中にはいらっしゃって、実際にはその3倍か4倍の賛成署名が実はもう出ていますので、その点をご心配はないということと、その防衛省の土地なのですが、いつでも買い手があれば、お譲りしたいという申し出は、かねがねありまして、その土地も含めて6割ぐらいは公有地です。したがって、そういった意味では非常に受け皿としては十分かなと思っておりますので、すみません、ちょっと言わせていただきました。

○行政部長 よろしゅうございますか。

それでは、最後に知事から一言お願いいたします。

○都知事 今日はお時間をつくっていただきまして、このような形でコミュニケーション

がとれたことをうれしく思っております。

これからも、ご要望、それから、現場の状況などを、お伝えいただければと思っております。東京をよりよく、都民第一で進めていくというのが私のモットーであります。

それから、ちょっと、さっき長期ビジョンについてお触れになったかと思うのですが、長期ビジョンはそうなのですが、あれではもう間に合わないというような、私は認識を持っているので、まず実行プランの準備をしたということでもあります。ただただ、あの延長線でいいかといったらそうではないと、世界の動き、日本国内の動き、それから、目指すべきこの方向性、これに違いはありませんが、そこでの質であるとか、量であるとか、スピード感であるとか、長期ビジョンから、さらにアウフヘーベンしているということだけ、ご理解いただければと思います。

よろしく申し上げます。

○行政部長 それでは以上をもちまして終了させていただきます。ご多忙のところ、ありがとうございました。

(了)

『小金井市』

平成29年2月14日（火）

11時36分～11時57分

○行政部長 それでは、冒頭、知事から一言、ご挨拶を申し上げます。

○都知事 おはようございます。座ったままで恐縮でございます。今日は都庁まで、わざわざお越しいただきまして誠にありがとうございます。また、日ごろよりの都政へのご協力、ありがとうございます。

新しい年度も控えております。予算案も編成をさせていただきました。そしてまた、市町村総合交付金につきましてもご要望どおりとまいましようか、それをしっかりと反映したものにさせていただいたということでございます。

都政の見える化は私の一丁目一番地でございますので、今日はこの模様につきましてはネットで中継させていただいておりますので、ご承知おきをよろしくお願いいたします。

小金井市も、大変、緑と水に恵まれた、文教都市でもあるということで、これからますます発展されることを期待をいたしておりますけれど、今日は小金井市の現状と、それから将来の期待とご要望を直接伺えればと、そのように期待させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは、西岡市長、ご発言をお願いいたします。

○小金井市長 座ったままでよろしいですか。

小金井市長の西岡真一郎です。今日は大変貴重な機会をおつくりいただきまして誠にありがとうございます。

知事もおっしゃったとおり、小金井市は水と緑、そして桜と公園のまちでございます。また、大変学校が多く、文教都市・学園都市でもございます。そして、NICT情報通信研究機構におきまして、日本標準時刻が生み出されている場所でございます「時を生むまち」でもございます。また、私としましては都市農業を大切にして、食育を大切にするまちをつくっていきたいと考えております。たくさんの魅力にあふれた小金井のまちの発展のために全力を尽くしてまいりたいと考えております。

まず、冒頭の感謝を申し上げたいことがございます。小金井市の最重要課題でございます可燃ごみの処理に関しましては、東京都及び多摩地域の皆様方のご支援をいただきまして、円滑に処理をさせていただいております。東京都の皆様方からの長年のご支援に、

まず感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

それでは、私のほうから何点か知事にお話をさせていただきます。

まず、子育て支援についてでございます。私は、子育て環境日本一という大変大きな目標を掲げさせていただいて、さまざまなことに取り組んでおります。まず、知事から、就任当初お示しをしていただき、取り組んでいただいた東京都の緊急対策にまずは感謝を申し上げたいと思います。小金井市といたしましても早速、認可と認可外保育園の保護者の方々の負担を解消する補助制度を創設していただきました。また、一生懸命現場で働く保育士さんの方々のための宿舎借り上げ、家賃補助につきましても創設させていただいております。この2つにつきましては、小金井市も早速活用させていただいております。特に家賃補助に関しましては、保育園関係者の方々から大変感謝の声をお寄せいただいております。

特にご要望したいのは、この認可と認可外保育の格差を是正するための、認可外保育施設の利用者負担軽減支援と、そして宿舎借上料につきましても一定年度が決められておりますが、ぜひ、恒久的な制度にさせていただきたいということは、ご要望させていただきたいと思っております。

また、保育の規制改革ということで、小金井市も今、待機児解消には全力で取り組んでおります。人口増、そして預けられるならぜひ仕事をしたいという方々も大勢増えてきてございます。当面しばらく頑張るつもりですけれども、新設保育園と既存園での定員拡大ということで、二面の立場から取り組んでおりますが、既存園の充実は、一定限界がございますので、やはり今後は新設園という形になってまいります。その関係で保育所等の新規施設開設手続の簡素化、よりスピーディーに開園ができるような仕組みをぜひご検討いただければと思っております。

また、育休制度の拡充というのも大変大きな課題でございます。育休休業がとりやすい、期間の延長、そして給与補償、これは国への働きかけにもなろうかと思っておりますが、この育休制度が、大企業そして中小企業、幅広く浸透していけるような取り組みをぜひお願いしたいと思っております。私はイクボス宣言というのを宣言させていただきました。市役所の中においても育休の推進に取り組んでまいりたいと思っております。

続きまして、駅周辺のまちづくりについて、ご要望させていただきたいと思っております。

まず、こちら小金井市の地図でございます、4キロ四方、人口がもうすぐ12万人になります。その市のど真ん中をJR中央線が駆け抜けております。おかげで開かずの踏切と

いう、小金井市は長年悩まされてきましたけれども、JR中央線の高架化事業が全て完成をいたしました。そして、武蔵小金井駅と東小金井駅の両駅になりますが、武蔵小金井駅の南口につきましては、第1地区というまちづくりが完成をいたしまして、ロータリーは今までの9倍の広さになりまして、今ではリムジンバス始発も導入されるようになりまして大変便利になりました。

そして、現在は武蔵小金井駅南口の第2地区、このエリアです。1月13日の日に小池都知事から武蔵小金井駅南口第2地区再開発事業の権利変換計画の認可をいただきました。ありがとうございます。平成32年の春の完成を目指しまして、720戸、このエリアでございます。木造家屋が密集し、狹隘道路で防災的にも大きな課題がございました。この解消を図るべく再開発事業を進めております。引き続きこの事業につきましては、東京都の皆様方と連携してまちづくりを進めてまいりたいと思っておりますので、ぜひ引き続き、ご支援よろしくお願ひいたしたいと思っております。

また、東小金井駅の北口でございます。平成12年から区画整理事業に取り組ませていただいております。引き続き、人的、技術的及び財政的な分野など重層的なご支援をお願いしたいと思っております。今ちょうど、東小金井駅北口のロータリーの建設工事が進展をしております、年度内にロータリーの上屋根を除く部分の原型工事をやっていきたいと思っております。この東小金井駅の北口の区画整理事業に関しましては、国の方針から社会資本総合交付金の配当が減少傾向となつてございますので、事業に影響がないよう国への働きかけを要望させていただきたいと思っております。

いずれの事業につきましても、2020年、ちょうどオリンピックの節目となる年に、市民の方々に利便性が高くなる、そういうまちづくりを計画してございまして、私どももいたしましても、beyond 2020、このまちづくりを通じて小金井市の発展に全力で取り組んでまいりたいと思っておりますが、東京都の支援が必要になってくる事業でございますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

続きまして、小金井市の長年の課題でございます庁舎問題の解決に向けた財政支援につきましてご要望させていただきたいと思ひます。平成3年に小金井市のちょうど真ん中でございますが、ここに庁舎建設予定地を購入いたしました。今現在、武蔵小金井駅の南口に庁舎がありますが、本庁舎、第二庁舎、本町暫定庁舎、またちょっと離れたところには健康課があるなど、小金井市はこの庁舎問題、長年の施設の老朽化、そして分散化、また財政的な課題、多くの課題を有してまいりました。私といたしまして、この庁舎問題を何

としても解決をさせていただきたいということで、さまざまな取り組みを行っております。

また、長年、福祉の拠点として使ってきた福祉会館という施設もございましたが、この施設はもう閉館をいたしました。この福祉会館につきましても庁内で今検討をしております。庁舎建設予定地を最も有力な候補地ということで庁内検討させていただきました。今後引き続き市民参加を経ながら建設地など固めてまいりたいと思っておりますが、この庁舎の建設に際しましては、私どもとしては、2つご要望があります。

1つは市町村総合交付金と東京都区市町村振興基金をぜひ庁舎建設などの老朽化対策にもぜひ活用させていただきたいというご要望でございます。

市町村総合交付金につきましては、対象事業となつてございます公共施設の用地取得費や庁舎等施設の解体整備費用、物件補償費についても積極的な対象項目にさせていただければというふうに思っております。こちらが庁舎建設予定地1万2,000平米の土地でございます。こちらに小金井市の新庁舎を建設する、竣工目標33年度と目標として定めさせていただきまして、現在、庁内検討を進めております。

また、東京都区市町村振興基金につきましては、現在、庁舎建設が対象とされてございませんので、これは地方債の発行を活用することになりますけれども、この市町村基金につきましても、国も平成29年度から市町村役場機能緊急保全を実施するという方針が示されてございますが、ぜひ東京都におきましても、この振興基金の庁舎建設への活用につきまして、ぜひご検討いただければと思っております。

続きましては、少しまとめてお話をいたしますが、東京都と、私ども小金井市の人事交流をぜひ積極的に進めさせていただきたいと思っております。これまでも主税局、総務局、都市整備局に派遣をさせていただきました。大変市の職員にとりましては、有効な、有益な取り組みでございまして、東京都庁の中で仕事をさせていただけるということは大変貴重な経験になります。これからも人事交流、相互の交流をお願いしたいと思っております。

また、都有地の活用、小金井は小金井公園、武蔵野公園、野川公園、多摩霊園と大変多くの都有地を有してございますが、市民の方々や町会・自治会の方々から要望の高い、例えば防災倉庫の活用でございまして、小規模でも構わないので都有地の有効活用ができないかということをお願いしたいと思っております。

また、無電柱化の推進は、他の自治体の方々からもご要望があると思っておりますが、小金井市もぜひ進めてまいりたいと思っております。

そして、小金井はJR中央線という多くの方々が利用する電車が走っているまちでございます。ホームドアの設置がこれから私たちは必要になってくると思っております。このホームドアの設置は、ぜひ国や事業者の方々に、JR中央線はもう大動脈でございますので、命を守る観点から、ぜひ積極的な働きかけをお願いしたいと思っております。

最後になりますが、ぜひ、小池都知事に小金井市にお越しいただきたいと願っております。もうすぐ桜が満開です。小金井公園では桜が咲き誇り、そして玉川上水には国の名勝小金井桜が咲き誇ります。ちょうどこの時期に、オリ・パラのフラッグが小金井に届けられます。4月1日でございます。ぜひ小金井にお越しをいただければ、都民、市民の方々も喜ばれると思います。そして、第四次都市計画道路の関係で国分寺崖線にかかわるところに東京都が計画をしてございます2つの路線につきまして、大変市民の関心が高い状態でございます。私も一定の考えを東京都の方々にはお伝えさせていただいておりますが、ぜひご視察に来ていただければ、都知事にぜひ現場を見ていただいて、今後検討していただければというふうに考えてございます。

以上になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 ご要望に対しての、お答え、都の対応について、ちょっと順序が入り乱れるかもしれませんが、ご容赦いただきたいと存じます。

小金井駅が随分変わるのですね、色々再開発も進めておられるということで、本当にご苦労さまでございます。都としても市の玄関口にふさわしいにぎわいで、そしてかつ安全・快適、生活の拠点になると、リムジンバスも離発着する、どこを結ぶ。

○小金井市長 羽田空港です。

○都知事 羽田と、そうですか。重要なプロジェクトだと認識をいたしておりますので、この点については引き続き補助金の交付などで適切に対応してまいります。

それから、北口の土地区画整理事業でありますけれども、交付金を取り巻く状況とすれば、依然厳しいところがございますけれども、市のまちづくりの推進を担う事業が支障なく進められますように、国に対して必要な財源の確保について働きかけさせていただこうと、こう考えております。

それから、待機児童については、大変ご努力いただいているところでございます。また、今回の緊急対策予算についても、うまく活用していただいているというお話でございました。まだまだこれは、追いかけてこのような状況になるかと思っておりますけれども、この部分

はやはり全てのもとになるところでございますので、しっかりと支援をしていきたいと、このように考えているところでございます。ちなみに、待機児童解消に向けた取り組みで、今年度と比べまして、新年度では400億ほど、かさ上げしております、しっかりと取り組むという姿勢を数字で示したところでございますので、その分、実施の現場である市のほうで頑張っていたきたいと存じます。

それから、まちづくりに関する支援で、駅のホームドアの件、これについては、関係者との連携が必要でございますので、整備促進に向けて取り組んでまいります。まず、私どもの管轄といいましょうか、営団であるとか、そういったところと、それからほかの鉄道事業者のほうにも呼びかけをしていくということでございます。

それから、また、総務局絡みの、人事交流のご要望がございました。そうやって人材の交流をしていくことが、都にとりましても色々と御市の状況についても知る機会でもございます。引き続き、市町村職員の受け入れなど、できる限り行ってまいりたいと思っておりますので、ウエルカムでございます。

それから、都営地の有効活用についてのお話でございますが、防災機能を高めるという観点からは、防災倉庫の設置は重要であるとの認識のもとで、市の防災計画を踏まえて調整させていただきます。

無電柱化については、ご承知のとおりでございます、これは私、ぜひ進めていきたいと、その思いでこれまでも活動してきたところ、かなり前に進んでまいりました。予算は、今年度の予算と新年度は余り変わりません。というのも、今、技術革新の真っ最中でありますので、むしろ、今やっておいていただきたいことは、市民の皆様方に、どこから先に無電柱化していくか、緊急輸送道路はマストになると思いますけれども、これから市街地などの再開発におかれる際は、そこから改めて、わざわざ電柱を立てる必要もないわけですから、そういったことはもう、まずは無電柱でいくのだという、それを徹底していただく。それから、緊急輸送道路に対しての無電柱化、それから、市街でも、市の指導で、これまで幅員が2.5メートルとか狭隘なところについては、これまで無電柱化ができなかったということですが、そういう事例、そういった規制緩和、それから非常に高いというコスト高、これは技術革新と工事の短縮、浅く、浅層埋設という形にしますと、掘る深さが変わること、当然のことながらコストが変わってまいります。あとはトランスが非常に高いのと、大きいのと、これは技術革新の分野になろうかと思っておりますので、ですから、それを考えると、新年度で急にそこが変わるということはまだ若干望めないという

ので同じ予算の額としています。

それから、知事の視察ということで、フラッグツアーへのお招きもいただきました。ちょうど4月1日に予定されておりますので、日程が合えば、ぜひ伺いたいと思っておりますし、今もお話がありました、せっかく伺うときには、色々見せていただきたいと、このように思っております。

それから、最後に、市町村の総合交付金の拡充のご要望でありますけれども、私からは、先ほどの、待機児童の課題といたしまして、市町村での緊急的財政負担について、市町村総合交付金、これは補正額も含まれますが、これを活用して対応していくというのが1点。

それから、冒頭におっしゃっていただきました、ごみの共同処理事業への配慮ということでありますけれども、これについても、市の財政需要に的確に応えられますように対応していきたいと考えております。ぜひ、私も環境大臣として、この焼却場・処理場というのは迷惑施設と言われがちですが、しかしながら、市民の生活には欠かせないものでありますので、そこは、市民の方々を納得させながら、かつ、コストを押さえながら進めていただきたいと、このように考えております。

局長のほうからも付随して。

○総務局長 それでは、庁舎整備に係る市町村総合交付金の充当の問題でございます。確かに現在、用地費でありますとか、庁舎等の解体、整備、物件補償費等は算定対象にはなっておりません。この点に関しまして、限られた財源の中ではございますが、今後、交付金の趣旨を踏まえた、的確で柔軟な制度となるよう、引き続き検討してまいりたいと考えております。

また、区市町村振興基金の貸し付け拡大の問題でございます。同じく、庁舎建て替え等は対象外となっておりますけれども、防災機能をはじめとしまして、庁舎の整備というのは非常に重要であります。地方債や各種交付金に係る適切な支援を行うなど、今後とも市町村を支援させていただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

○行政部長 そろそろお時間でございますが、何かありますか。

○小金井市長 知事、本当にご丁寧にご対応いただきましてありがとうございます。大変感謝を申し上げます。ぜひ、また、小金井市にもお越しをいただきたいと思います。

「未来をひらく」そして「選ばれるまち」となるための小金井市改革にも挑んでおりまして、行財政改革は必須の課題でございます。行財政改革にも今、庁内を挙げて一生懸

命取り組んでいるところでございます。それから先ほど来お話の人事交流が非常に重要だと思っておりますので、ぜひ積極的に進めさせていただきたいと思っております。

私といたしましては、小金井というまちを市民の方々にとって誇りの持てるまち、住み続けたいと願われるまち、そして、高い市民力と地域力があふれているまちでございますので、この市民力・地域力がもっと活かされるまち、小金井を目指していきたいと思っておりますが、今後とも、ぜひ、東京都と連携をしながら、知事と連携をしながら、小金井のまちづくり、人づくりに励んでまいりたいと思っております。ぜひ、今後とも、よろしく願いいたします。

○行政部長 それでは、最後に知事から一言お願いします。

○都知事 ありがとうございます。これからも市民のため頑張っていたいただきたいと思います。ありがとうございます。

○行政部長 以上をもちまして終了とさせていただきます。お忙しい中ありがとうございました。

(了)

『瑞穂町』

平成29年2月14日（火）

13時01分～13時21分

○行政部長 それでは、冒頭知事からご挨拶させていただきます。

○都知事 町長ありがとうございます。都庁までご足労をおかけいたしました。直接、町長から町の実情と将来の課題、そして都へのご要望を伺わせていただく機会を設けさせていただきました。わざわざお越しいただき、誠にありがとうございます。

そして、都政の見える化を徹底して図っております。その関係からも、ネットを通じまして公開されている、中継しているということ、ご了解いただきたいと思います。

また、瑞穂町は大変豊かな自然に恵まれていらっしゃいますし、お茶やお花など数々の産業も活発に進んでおられます。そういった中で、皆様方から、今日の現状と課題、お時間許す限りお使いいただいて、私どものほうからしっかりそれに応えさせていただくということで、よろしく願いを申し上げます。すみません、鼻声で。

○行政部長 それでは、石塚町長、ご発言をお願いいたします。

○瑞穂町長 瑞穂町長の石塚でございますが、本日は意見交換会の場をつくっていただきまして、大変ありがとうございます。

早速、瑞穂町の概要を申し上げます。町制施行77年を迎えております。1940年、昭和15年の紀元2600年の式典でできたというのが町でございます。

○都知事 それで瑞穂なんですか。

○瑞穂町長 はい。豊葦原の瑞穂の国をとっているところであります。この年は陸軍多摩飛行場ができた年でありまして、ですから、現在の横田基地と瑞穂町というのは最初が、スタートが同じでございます。もう一つ申し上げますと、私の生まれた年も1940年で、非常にわかりいいようになってございます。

余計なことを申し上げましたが、人口が約3万4,000人、知事も選挙中にいらっしゃいましたけれども、新宿から約40キロメートルという地点でございます。面積が1,685ヘクタールでございます。市街地を形成していますが、東部には緑豊かな狭山丘陵が広がっておりまして、この狭山丘陵は東京都が既に貴重な緑地として公園整備を進めていただいております。町内の開園面積が約105ヘクタールということでございまして、既に都民の憩いの場となっております。

一方、南部には先ほど申し上げました米軍の横田基地が広がっておりまして、この面積は町域の約13%、約210ヘクタールを占めておりまして、町の中心部を通過するように航空機が離着陸を繰り返しております。これは地図と航空写真でおわかりと思いますが、白い、今、知事が右手でお持ちの航空写真の真ん中に飛行場が茶色く出ております。その先が瑞穂町でございまして、ちょうど私の町の上空を離着陸する飛行機が全て通るといようなのが配置になっております。したがって、建物の高度制限というものがございまして、周囲は全て市になりましたが、瑞穂町だけはまだ町として存在しているわけがございます。航空機騒音や事故の発生の危険性が町の大きな阻害要因ということになっております。しかしながら、私は、基地は国防上極めて重要であると認識しておりまして、常日ごろ町民には、日本の安全があつてこそはじめて町の安全があるんだということを考えて話しているのが現状でございます。

そして、町の現在の課題でございますが、これが非常に重要なのでございますが、交通体系の弱さに起因する経済損失ということが挙げられるわけでございます。ふだんの移動交通の手段も自動車に頼らざるを得ないということでございます。そのために朝夕の渋滞の慢性化、高齢者の移動時間に負荷がかかっております。公共交通の整備が町民アンケートでもいつもトップの話題になっておりまして、そのために現在、東大和上北台まで来ている多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面延伸の早期計画決定をお願いしたいと考えているのが第1のお願いでございます。

既に町では関連事業といたしまして、新青梅街道沿線と箱根ヶ崎駅周辺で土地区画整理事業を施工中でございまして、進捗率も70%を両方の区画整理とも超えております。また、多摩都市モノレール基金を平成29年から設置予定でございます。

もう一つは、軌道交通としてJR八高線が中心部を通っております。既にJRは瑞穂町内に複線化及び車両基地用地として約17ヘクタールを確保しております。中央線の複々線化事業の遅れでこちらのほうも進展が見られません。また増便、新駅の設置もあわせてJRに要望してはいますが、一向に進展が見られないというのが現状でございます。新駅についても準備を進める中で、町北部の栗原地区の土地区画整理事業の成否がこれにかかっているわけでございます。

さらに公共交通といたしましては最も身近な足でありますのが都営バスの梅70号線というのがございまして、これも存続が不可欠になっております。

次に、私どもの町の問題は、防災力の向上といたしまして、平成29年から3カ年で防

災本部機能を高めた新庁舎の建設を進めております。町内を立川断層が横切っておりまして、これに伴いまして耐震・免震機能を備えた庁舎には約40億円という費用がかかる予定でございます。この費用負担は小さな町の財政には重くのしかかりまして、東京都の財政支援をぜひこの点はお考えいただきたいと思っております。

庁舎以外にも旧耐震基準の住宅の更新の促進が急務であり、東京都と町の支援体制を早急に構築しなければなりません。地方創生が求められる中で、地域資源を生かしたまちづくりといたしまして、瑞穂町では水、緑と観光を繋ぐ回廊計画の実現を鋭意進めております。これはご配付の資料にございますが「水・緑と観光を繋ぐ回廊計画」として概要が示されておるわけでございます。町の豊かな自然観光資源や文化財などの歴史的資源を回遊ルートで結びまして、今後、遊休農地の有効活用や都立野山北・六道山公園の事業と連携して強化をするように、さらに進めていただけるようお願いするところでございます。

冒頭にも申し上げましたが、横田基地の存在は町の発展の大きな障害でございます。これ以上航空機の離着陸が増加することは認められないことと思っております。横田基地の軍民共用化につきましては、航空機騒音と事故の不安を抱える滑走路直下の自治体として、これに強く反対しているのが状況でございます。

最後に、これはぜひともまたお願いしたいこととございますが、多摩地域経済の活性化を強力に推進していただくことが瑞穂町が発展するその要因だと思っております。瑞穂町はこれまで自立性を保つ努力を重ねてまいりましたが、周辺の各自治体が自立と連携を図ることで広域的な交通や高齢化、少子化への対応が図れるものと思っております。全体を通じまして、我が町も高齢者人口増加に比して年少人口が増えず、このままの状態でありますといずれ人口減少に転じます。安全で安心な町を形成する都市基盤整備、高齢者の増加に対する社会保障制度、子育て世代に対する支援など、確実な行政執行力を担保するためには、東京都の制度、支援並びに財政支援は欠かせません。

規模的には町ではありますが、抱える課題は近隣市と同様の状況でありまして、社会資本整備も十分とは言えません。安全安心なまちづくりを進める上でも市町村総合交付金は重要な財源となっております。本年度は既に増額をしていただいたところでありまして、この点は深く感謝申し上げます。今後も、多摩地域の自治体の個別状況にはご理解をお願いしたいと思います。

最後に、横田基地が存在することで、土地利用制限及び高度制限など、まちづくりに大きな影響を及ぼして、さらに交通網の利便性が悪いことは地域経営にとっても重い障害で

あります。特に多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面への延伸について、再度早期の計画決定をお願いしたいと思っております。

以上、簡単ではございますが、よろしく願い申し上げます。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。瑞穂町の町の名前の由来がそこまで非常に歴史あるものだというのを改めて確認いたしました。ありがとうございます。

一方で、人口が増えて。

○瑞穂町長 だいたい横並びですかね。

○都知事 そうですね。そうですね。大体とまっているというかな、色々のご努力の成果で、こういう3万3, 445というのが最新の数字で私どもいただいておりますけれども、それでも色々課題があるということでございます。

まず、モノレールの早期延伸ということについては、以前からずっとご要望いただいている件かと思えます。モノレールは、多摩地域の活力や魅力を保持し、そしてまた発展させていく一つの大きなツールとなって、整備効果が高い路線と認識をしておりますが、この点については、関係者間さらに連携いたしまして検討を深めていきたいと、このように思っております。

それから、多額の費用がかかると思われる庁舎の建設ですが、防災の観点からというお話でございました。後ほど局長のほうからも加えさせていただきますけれども、行政の中核拠点となるわけですね、庁舎というのは。いざといったときにそこがまず防災の拠点でしっかりしていないといけないという、その意味は大変重要かと思えます。防災対策に資する対応については、これから国の動向も踏まえながら総合的に検討させていただきたいと考えております。

それから、横田の基地、軍民共用化ということですが、この横田の基地の存在について、国防の観点から深い理解を賜っているということには敬意を表したいと存じます。一方で、軍民共用化ということは、それだけ使用頻度、離発着の頻度が高まることによる懸念ということで受けとめさせていただきたいと思えます。軍民共用化については、多摩地域を含めた首都圏西部の航空の利便性を向上させるという意味で、ある意味一つの目玉であることも事実なんですけど、しっかりと引き続き地元のお声も聞いてまいりたいと考えております。

それから、市町村総合交付金でございますけれども、これは個別の事業に係る財政負担

への配慮をさせていただくものでございます。これについては、公共施設の更新であるとか、安全安心なまちづくりということでお話、ご要望を承っているわけでございますが、それから社会保障関係経費の増大、これはもう日本中であるわけでありまして、これらにつきましては、扶助費の増加、そして老朽化した公共施設の更新、どれをとっても非常にお金がかかる話でございます。町を取り巻く財政状況が厳しいというお声も先ほどございました。町の財政需要に的確に応えられますように、この交付金の活用ということについてもメリハリをつけながら対応させていただきたいと考えております。

私からは以上です。

○総務局長 それでは、市町村総合交付金の庁舎建設への充当という問題でございます。限りある財源ということで、現在のところ庁舎建設等には算定対象にはなっておりませんが、庁舎の防災機能の確保は極めて重要な課題でございます。地方債や各種交付金の活用に係る適切な支援など、また、市町村総合交付金の制度のさらなる検討なども踏まえまして、引き続き市町村を支援させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○行政部長 石塚町長、何かつけ足しとかはございますでしょうか。

○瑞穂町長 では、一言申し上げますと、軍民共用化のお話で、西多摩の全体のメリットというような感じで知事はお話しされたと思うんですが、私どもは、三沢基地その他の軍民共用というのを何度も見学に行っております。その場合には、騒音問題とか、あらゆる問題を解決して進めておるんですね。ですから、三沢の場合には騒音地域を全部、国の国費で移転して、簡単に言うと無人の荒野をつくってやっております。また、施設面では、軍の施設と民間の施設というのをちゃんと縦割りでやっております、それは一切交わらないように運営もやっております。そういうあらゆる方策を得ての軍民共用化ということであれば、これもやむを得ない面もあるかもしれません。

しかし、そういう問題は一切どこか棚上げになっちゃって軍民軍民ということと言われるものですから、そちらのほうはどうなっておりますかという話がたびたび出るんですが、その回答は一切なくという形でございますので、私どもははっきりと、そういう打開策もないので推進できないはずだというような形で反対させていただいているのが現在です。その点はひとつご理解をいただきたいと思っております。

○行政部長 それでは、そろそろお時間でございます。最後に知事から一言お願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。全員が緑系でネクタイを締めてきていただきまして、瑞穂町はまさに緑の町だと思います。自然を大切に保存しながら開発を進めていくというこの2つをテーマだと思っておりますけれども、どうぞ町民ファーストのこれからも行政で頑張っていただきたいと存じます。今日はわざわざありがとうございました。

○行政部長 お忙しいところ、ありがとうございました。

(了)

『西東京市』

平成29年2月14日（火）

13時23分～13時37分

○行政部長 それでは、冒頭知事からご挨拶申し上げます。

○都知事 今日は都庁までご足労をおかけいたしまして恐縮でございます。平素よりの都政運営に係りますご協力、誠にありがとうございます。今日は、西東京市の実情、現状、そして将来へのご期待、さらには都へのご要望、直接伺わせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、都政の見える化を進めておりますことから、ネットでの中継をいたしておりますので、ご了承いただきたいと存じます。

西東京市は、多くの緑に恵まれ、また区部にも隣接しているというところで、非常に魅力的な地域だと、このように存じております。

それでは、早速、市長のほうからお話を伺えればと存じます。

○行政部長 それでは、丸山市長、よろしくお願いいたします。

○西東京市長 どうも今回はこのようなヒアリングという機会をありがとうございました。今日は副市長と、それから企画部長と、それから総務部長のメンバーで来ました。よろしくお願いいたします。

今、現状と今後の展望というようなことですが、西東京市、ちょうど平成13年の1月21日に合併をし、平成のそういう意味では対等合併というようなことで16年を迎えました。もう17年目に入ったというような状況でございます。昨年の国調では20万12名ということ、それからまた人口密度からすると、ちょうど武蔵野市に次いでということで、面積的には4キロ四方というところに、ちょうど池袋線の2駅と、それから西武新宿線の3駅があつて、そういう意味では二、三十分で、大体駅のインフラという意味では、多分23区のほうにお仕事に行ってらっしゃる方が半分ぐらい、都市農業という意味では、まだ緑という意味では145ヘクタールぐらいございまして、そういう意味での景観は緑がまだまだあるというような状況でございます。

課題としては、そこにちょっとフリップで掲げさせていただきましたけども、こちらは昨年の3月に西東京市の、まち・ひと・しごと創生総合戦略というところで、その基軸に「健康」応援都市の実現ということを挙げさせていただきました。私自身も、そういう意

味では今までのキャリアからすると、まず市民の健康、それからまちの健康、それから、合併をしてということで課題のある中で市政運営の健康というようなことでやってまいりまして、健康施策はど真ん中に置いているということで、これまでも健康応援団、それからまた健康チャレンジ事業、それから前の市長がちょうど合併10年で健康都市宣言をやっていただいたということ踏まえながら、26年の7月に西太平洋に事務局があります健康都市連合、ここに多摩26市では初めて加盟させていただいたということで、人の健康だけではなく、まちをどうやって健康にするかと。それ以外に、やっぱり教育ですとか、それから環境ですとか、それから経済ですとか、そういうような水準が上がることによってそのまちの健康というものの水準が上がるというようなことで、その施策を前に進めているところです。

それから、やっぱり課題としては、どうしても合併をして16年たったということで、実はちょうど合併をしてから新市計画、そして第1次の総合計画、それから第2次の総合計画がちょうど26年の4月スタートをしましたので、1年間前倒しをして第4次の行財政改革を同じ年にスタートさせております。行財政改革もそういう意味では大事なポイントだと思っていますので、前回は51項目ぐらいあったのが95項目ぐらいに増やして行財政を進めているというような状況です。

その表紙を撮ってきたと思いますけども、ちょうど西側を向いて富士山も少し見えるという、下には多摩六都館があって、サイエンスエッグと、裏表紙に2年前に国史跡になった下野谷遺跡があるというようなことです。

課題解決に関しましては、今までお話ししたような17年目ということでのまちづくり、それに対する財政的な課題というようなことは常にあるというような中で進めているということです。

それから、「健康」応援都市の実現に向けてというのは、先ほどお話ししたような形で前へ進めているという状況です。

それから、もう一つは庁舎統合の方針の着実な推進。これも合併をした当初は1市2庁舎体制で来て、そして23年の11月に西東京市における公共施設の適正計画ということスタートをさせまして、その中にいわゆる庁舎問題も位置づけて今日に来て、今年の12月に今方針を決定したというような状況で、これを前に進めていくというような状況です。

それからもう一つのフリップ、次のフリップに書いてあるのは、これは今日この場で東

京都のほうに少しお話をさせていただこうと。これは市町村の総合交付金の配分、これはもうどこの自治体も多分おっしゃっている話だと思いますので、今回の多摩ビジョン、いわゆる多摩地域の創生という意味では、これは前に進めていただきたいというようなことです。

それからもう一つ、ここに振興基金の貸し付け対象の充実と、これはやはり一般会計という形でのまちづくりにとっては市としては非常に大事で有用な基金というようなことで、一例を挙げますと、今回、知事もおっしゃっています待機児童、これに対する施策という意味で、地財法があるんで、なかなかその枠はというようなところがあるとは存じているんですけれども、例えば株式会社とかNPOとか、そういうところを実はうちのほうも最近できてくるのが大体株式会社、NPO、それに対するいわゆる対象拡大というようなことをちょっと検討していただければというようなことです。

それから、建築事務、これも数年前から東京都のほうから来ていただいて、そしてまたうちの職員も東京都のほうに研修に出させていただいて、今年の4月からこの建築行政という形でスタートするというようなことなんですけども、なかなか人材確保ということからすると、これも課題ということなんで、この期間の問題、それから人の問題、その辺のところはまたご相談させていただければと思いますので。

以上です。

○行政部長 ありがとうございます。それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 幾つかご要望がございました。まず、市町村総合交付金の増額の確保ということでございますが、今回、全体を増額させていただいておりますが、そういう中で地域の特性を踏まえたまちづくり、この事業を推進するためにメリハリをつけた対応で私どもも臨ませていただきたいと、このように考えております。

それから、区市町村振興基金の柔軟な貸し付けについてのご要望がございましたが、これまでも各市町村様から要望をいただいております、効果的で柔軟な貸し付けを行ってきたと、このように都のほうは考えておりますが、子育て支援の実施主体がまさしく市で現場でいらっしゃいますので、その点では先ほどの待機児童対策などで一番頑張っているということもございます。そこで地域の实情に応じた施策を展開できるようにしっかり対応させていただきたいと思っております。

それから、人的支援でありますけれども、建築行政の事務に精通した職員を現在も派遣させていただいております。おっしゃっているのは、多分派遣を終了するのが平成31年

ということで、その後をよろしくというお話だと思いますけれども、今後とも、市の状況を踏まえまして、役所言葉ですみません、適切に対応させていただきます。

それから、交付金のこれは先ほどお伝えしましたね。

市長は、何よりもお医者様で池袋のほうであれですか、豊島のほうだったんですか。

○西東京市長 そうです。

○都知事 そうですか。外科、心臓。

○西東京市長 心臓血管外科です。

○都知事 これまで手術例は何例ぐらい。

○西東京市長 都立豊島病院の海外研修も行ってましたし、大学にもおりましたので、件数からすると数百例になります。

○都知事 医療現場については一番詳しいということかと思いますが、市の行財政支援などというのは、まさしく市の健康状況のバロメーターになるところかと思いますが、しっかり健康な市政になるように私どもも協力させていただきたいと思っております。時にはダイエットもし、時には筋肉をちょっと鍛えという、同じことじゃないのかなというふうにも私も思うところがございます。いずれにしましても再選おめでとうございました。

○行政部長 市長、どうぞ。

○西東京市長 今の健康施策で、どこの自治体も多分8年後の地域包括システムを目指して、その前に診療報酬の改正だとか、それから第7期の計画がスタートしますので、かなりやっぱり自治体にとってはその仕組みづくりが大変な状況、そういう中で今年の10月に在宅の療養支援センターを立ち上げたということと、それからもう一つ、この4月に多分区内では初めてだと思います。フレイル事業をスタートさせるということで、今年の12月には東京大学と協定を結ばせていただいて、これをスタートしようと考えております。

○行政部長 よろしゅうございますか。それでは。

○総務局長 市町村総合交付金の配分の手法について、かねてより要望いただいているところがございます。ご案内のとおり、財政力、経営努力、それから地域振興、この3つの視点でやっております、経営努力の配分割合の引き上げをというご要望をいただいているところがございます。市町村の主体的な行財政改革の取り組みを促す仕組みは大変重要だと考えております。時代の変化に的確に対応した制度とするために、今後とも適時適切に見直しを行っていききたいと、このように考えております。

○行政部長 それでは、よろしゅうございますか。それでは、最後に知事から一言お願い

します。

○都知事 ありがとうございます。選挙を終えられたばかりでほっとされているかと思いますがけれども、これからの4年間というのは、本当に2020オリンピック・パラリンピックもございますし、その後の人口のさらなるピークを迎えるというのも2025年、西東京にとられましても、東京都にとりましても、とても重要な時期かと思えます。どうぞますますご活躍のほど期待をいたしております。今日はありがとうございました。

○西東京市長 今日はありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終了させていただきます。お忙しい中ありがとうございました。

(了)

『あきる野市』

平成29年2月14日（火）

13時38分～13時51分

○行政部長 それでは、冒頭知事から一言ご挨拶を申し上げます。

○都知事 今日はわざわざ都庁までお越しいただきまして、ありがとうございます。恐縮です、座って行わせていただきます。また、日ごろより都政運営にご協力を賜っておりますことを改めて御礼を申し上げます。今日は、市の現状、そして今後の期待、そして目標、さらには都へのご要望等伺わせていただくということでお越しいただきました。なお、このやりとりにつきましても、都政の見える化を図るという観点から、ネットで中継させていただいておりますので、ご了承のほどお願いを申し上げたく存じます。

大変、自然に恵まれたところで、宝物としてもたくさん魅力を抱えておられると、このように思っております。どうぞ忌憚のないご意見、ご要望、お寄せいただければと存じます。よろしく願いいたします。座ったままでどうぞ。

○行政部長 それでは、澤井市長、ご発言をお願いいたします。

○あきる野市長 今日はこのような機会を設けていただきまして本当にありがとうございます。日ごろより東京都には多摩地域の自治体へのご理解とご支援を賜りまして感謝を申し上げます。

あきる野市は平成7年、1995年に秋川市と五日市町が合併をいたしまして、豊富な観光資源と都心からのアクセスの良さもありまして、自然と都市機能が共存する都市として発展をしております。しかしながら、合併をして既に20年という二十歳になりましたが、社会情勢の影響もありまして新たな課題も生じているということでございます。市といたしましては、今後とも、東京都並びに多摩地域自治体と連携をし、地域の魅力など磨きをかけてまいりたいと考えておりますので、さらなるご支援をお願いをいたしたいと思っております。

それでは、本日の課題、取り組みについてご説明を申し上げます。

まず、秋川高校跡地における土地活用でございます。秋川高校は、昭和40年ごろに確か出来た学校で、私が中学を卒業するぐらいでございました。その後色々と、授業を再開し、そして平成13年3月に閉校した秋川高校跡地につきましては、都と市の間で産業系活用という共通認識を持っておりましたが、平成25年に開催した東京都国体以降、この

動きが停滞をしております。本市では、現在、周辺地域の都市計画の区画整理事業を進めていることから、要望を踏まえまして東京都の積極的な対応をお願いをしたいと思っております。

次に、公共交通のインフラ及び幹線道路の整備でございます。東西に長く広がり平野の部分と中山間地をあわせ持つ市においては、計画的な道路整備を進めておりますが、南北交通の整備が行き届いていないという実情がございます。多摩地域においては、区部に比べまして都道の整備が遅れていることを勘案していただき、優先的かつ計画的な推進をお願いをしたいと思っております。

次に、防災事業及びその対策の充実を掲げさせていただきます。本市や西多摩地域には山間地や傾斜地が多いことから、避難場所となる小中学校等の公共施設が多数ございまして、土砂災害警戒区域内に点在をしております。本市では、地域住民の防災意識の醸成や発災を想定した訓練を積極的に実施してきたことから、ソフト面での対策は進んでおりますが、ハード面の対策が追いつかない状況でございます。都民の安心と安全を守るという視点から財政的なご支援をお願いをしたいと思っております。

次に、オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、取り組みについてございまして、キャンプ地を誘致する場合、施設の改修など支援をお願いをいたしたいと思っております。また、多摩地域を代表する地域資源の一つである多摩産材を東京都が整備する競技場等に積極的に活用していただくとともに、その魅力をともに発信をしていきたいと思っております。

次に、財政力格差に対する支援でございますが、本市の財政状況は、ほとんどが財政指標26市の中でも最下位でございまして、またはそれに近い位置にある部分もございまして、一方では、福祉分野などの市民サービスについては都内各市と同等のものを求められており、市町村の財政に応じた都の財政支援については、これまでもご配慮いただいているところでございますが、都民が等しくサービスを享受できるよう、さらなる拡充をお願いをいたしたいと思っております。

最後に、一部事務組合への負担のご支援でございます。本市が加入をいたします一部事務組合につきましても、構成市町村が規模が小さいため、あきる野市の負担割合が著しく高くなっておりまして、東京都におかれましては、秋川流域住民のサービスに必要な施設の運営に対しましても、なお一層のご支援をお願いをしたいと思っております。

以上、少し長くなりましたが、私からの説明とさせていただきます。よろしくお願いを

申し上げます。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは、知事からお願いいたします。

○都知事 第1に、ご要望のありました秋川高校の跡地の土地活用の件でございます。要望書については以前から受け取っているところでございますが、市のご要望、土地利用方針を参考にしまして、引き続き関係部局と連携を図って具体的な案にまだまだなっていないという状況かと思っておりますが、協議を重ねていきたいと考えております。

それから、公共交通のインフラ整備でございますけれども、西多摩地区地域での道路整備は極めて重要と、このように考えております。縦と横とそれぞれの利便性というのはまだまだ改善の余地はあろうかとは思いますが、事業中路線の一層の推進を図っていくということ、それから、第4次の事業化計画の優先整備路線なども計画的に事業化をして着実に進めていきたいと考えております。

それから、こちらハード面でありますけれども、防災事業とその対策の充実で、おっしゃるとおり、中山間地や傾斜地が多いというそういう中において、土砂災害対策というのは極めて重要かと思っております。それはハードのみならずソフトの両面、さっきドローンを使ってというのがございましたけれども、こういう新しいやり方で、途絶した地域がもし出た場合には、物資を搬送するということが十分考えられるかと思うのですが、さまざまな意味でのハード対策については、例えば避難所などの重要度を考慮いたしまして、計画的に実施をしてみたいと、このように考えております。

それから、オリンピック・パラリンピックでございますが、これはもうオール東京で臨むという構えでございます。そして例えば事前キャンプの誘致でございますけれども、昨年度から施設整備補助事業を実施してまいりましたが、来年度の予算で拡充をすることとしております。また各国に、こちらにこういういい場所がありますよというのを知らしめないといけませんので、それは都の専用ホームページで体育施設を紹介するというので、それぞれのキャンプ地の誘致、積極的に支援をしてみたいと存じますので、そのマテリアルを出していただければよろしいかと思っております。

それから、同じく2020年大会でありますけれども、できるだけ多摩産材も活用するというので、木材の利用については検討をしっかりとしていきたいと存じます。

それから、総合交付金の関係でありますけれども、財政支援の拡充のご要望であります。一部事務組合の運営に係る財政負担への支援ということで、振興支援割で継続支援中であるということと、それから、大変広い、合併によって行政面積100平方キロメートルを

超えるということでもありますけれども、それだけ市、地域が広いとその分公共投資なども課題、難しさも多いということで、合併した市ならではの課題を抱えておられるということだろうと思います。今後とも、地域の実情を踏まえまして、効果的な支援ができるように努めてまいりたいと考えております。

それから、人口については伸びているんですね。人口は伸びていると。

○あきる野市長 そうですね、トントンぐらいです。

○都知事 大体横ばい。待機児童のほうが、今こちらでは18人というふうに聞いております。財政負担などへの配慮も、この緊急的な財政負担など総合交付金も活用しながら対応をさせていただくこととなっておりますので、十分にご活用いただければと、このように思っております。

○行政部長 澤井市長、いかがでしょうか。

○あきる野市長 色々ご配慮いただきましてありがとうございます。先ほど知事さんからありましたように、本当に合併をしまして、やっぱり平地の部分と山の部分、非常に厳しい土地形成をしているわけでございますので、どうぞ色々な角度でのご支援、また、特に多摩地域と区部とはちょっと違った部分がありますので、今、知事からも待機児の問題がございましたが、多摩、特にあきる野市では少数で少しずつ少しずつ待機児解消ということでようやく十数名ということになりましたので、またさらなるご支援をお願いをしたいなと思っておる次第でございます。

それから、先ほど秋川高校、この跡地につきましても、できましたら東京都とあきる野市でPTか何かを作成しまして、皆さんで議論できればありがたいかなと思っております。

○行政部長 よろしゅうございますか。それでは、最後、知事から一言お願いします。

○都知事 ちなみに、いわゆる新住民と旧住民というのはどれぐらいの割合なのですか。

○あきる野市長 はっきりとトータル的には知っておりませんが、やはり昔の方のほうがあきる野市は多いかなと思っております。

○都知事 農業、農家も結構。ぜひ緑を守っていただいて、その上でご発展されますことを期待しております。今日はありがとうございました。

○あきる野市長 どうも色々ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

○行政部長 以上で終了させていただきます。ありがとうございました。 (了)

『府中市』

平成29年2月14日（火）

13時52分～14時11分

○行政部長 それでは、冒頭知事からご挨拶を申し上げます。

○都知事 座ったままで失礼いたします。今日はお忙しいところ、ご遠方から都庁へお越しいただきまして、ありがとうございます。また、平素より都政の運営に関しましてご協力いただいておりますことに改めて感謝申し上げます。今日は、新年度の予算編成も終わり、また、交付金などにつきましても、市長会、町村会のご要望等々を受けまして増額もさせていただいたところでございます。今日は、直接府中の現状、そしてまた課題、そして都へのご要望を伺わせていただきます。

そして、都政の見える化を図っております関係もございまして、ネットでの中継をいたしておりますので、ご了承のほどよろしく願いいたします。

また、府中市はこれから2019、2020の両方ですね。ワールドカップとオリ・パラということで、大変スポーツの関係で全市で取り組んでおられるということでございます。これをいきっかけとして、さらに市の発展につなげていただければと、このように思っているところでございます。

それでは、早速市長のほうからご要望を伺わせていただきたいと思います。

○行政部長 それでは、高野市長、ご発言をお願いいたします。

○府中市長 改めましてこんにちは。府中市長の高野律雄でございます。今日は、このような絶好の機会をいただきまして、まず心から厚く御礼を申し上げます。

府中市の現状と、そして今後の課題、さらには要望につきましてお話をさせていただきます。

まず、府中市においては、ほかの区市町村さんも多分同じ傾向にあるんだろうと思えますけれども、やはり高齢者が増えてきている。そして、その地域における見守りをはじめとしたつながりをどう仕組みを構築していくか。加えて、近年自然災害が非常に多く起きておりまして、この東京にも直下型等の大地震が来ることも近々あるんじゃないかということをお考えますと、同じく地域のつながりというのをどうつくっていくかという、これについては市の大きな課題として、市民協働のまちづくりを現在進めているところであります。

そこで、大きく3点について、今日は改めての要望ということなのですが、まず、多摩地域において、これは数字なので正直申し上げますと、保育園の待機児童が毎年多いのが私どもの市でありまして、昨年度は300人を超えて多摩地域で一番多かったです。この平成28年度の初めも250人を超えておりまして、多摩地域でも本当に一、二を争うという数字になっております。過去15年間の数字を少し見てきたんですが、定員増はもう今、5,500～5,600人の定員なのですが、2,300人ほど定員を増やしてきておりますし、毎年施設もそういったことですから造ってきておりますけれども、なかなかこれが追いつかない。それを考えますと、これからも施設はしっかりと造り続けなければいけないと思うんですが、やはり女性がお子さんを産んで、そして育てていく過程でいかに広域的に支援をするか。しかも職場とか、あるいは地域とか、そういった理解をさらに求めながら、総合的な子育て支援をしていくことが、やはりこの問題の解決につながるのではないかというふうにも思っております。

そこで、東京都にお願いしたいということは、もちろん色々平成28年度の補正予算で、知事が直ちに色々子育て支援、保育園の待機児解消のための予算をおつけいただきましたけれども、それはそれとして、一番の多くの事業所が集まっている東京都でございますので、この職場それぞれの職場環境において子育て支援、保育の施設をつくる、あるいは育児休業の、今、大体1年か1年半ですけども、それをもう少し長く取るようなことができないうか、そういうことを進められないか、さらには家庭で子育てをしている方々に対する支援等が何かできないか、広域的な視野でお考えをいただければ大変ありがたいなど。

先ほどお話ししました本市の待機児童なのですが、300名を超えている中で、ほぼ9割以上が1歳と2歳の待機なんです。ですから、ここはやはり1歳、2歳に特化して何らか制度ができないかということをご要望申し上げたいというふうに思っております。

そして、3つのうちの2つ目の大きな要望ですが、先ほど知事からも触れていただきました2019年のラグビーワールドカップ、また2020年のオリンピック・パラリンピック、幸いにして私どものまちにはラグビーのトップリーグの強豪チームが2チームございまして、つい先日もラグビーのサントリーサンゴリアスというチームがリーグで優勝し、日本選手権でも優勝し、そのタイトルを府中に持ってきていただいたので、京王線府中駅前のケヤキ並木で大パレードをレッドカーペットを敷きましてやったところなんですけども、そういったもともとの土壌がありますので、何とか公式キャンプ地にも立候補させて

いただいておりますので、これを何とか取りたいという気持ちと、それから、それについては施設整備や、あるいはボランティアの育成、さまざまな機運醸成も含めた準備が必要なので、もし公式キャンプ地として決定したならば、ぜひご支援をいただきたいというふうに思っております。

また、ワールドカップの開会式と開幕戦は、本当に隣接している、今は味の素スタジアム、つまり東京スタジアムで行われますので、もう本市のすぐ隣であります。西武多摩川線の多摩駅という駅もここに隣接をしている駅でありまして、これは府中市内なものですから、ここの改良工事なども、今もう大分、東京都のご協力とご理解をいただいて進んでいるところではありますけれども、ぜひこれもあわせてお願いをしたいというふうに思っております。

また、スポーツばかりではなくて、2020年のオリンピック・パラリンピックまで考えますと、文化とか芸術とか、これを世界に発信する絶好の機会だというふうにも捉えております。ですので、もうできれば近いうちに文化的な事業も、市として考えられること、あるいはいろんなネットワークで民間の方々と協働で行う事業が起こすことができましたら、東京都のご協力もいただきたいですし、また何より知事に直接おいでいただくような機会もあればと思って一生懸命練ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

最後に3つ目です。府中の北部のほうに当たるんですが、小金井、国分寺に近いところに、元の米軍の施設、府中基地跡地というのがあります。約15ヘクタールの土地ですが、これは国が所有した留保地のままになっておりまして、全くのブッシュとかやぶとか、色んなけものたちもそこで生息をしているほどのところであります。府中市といたしまして、国に対して、今、基本計画をつくって跡地をどう利用するかという計画を練っているところなんです、何と云っても15ヘクタールもありますので、府中市単独ではなかなかこれ全てを整備する、また活用していくというのは非常に難しい。ですので、改めて小池知事にこの場所をご覧をいただいて、都として何か活用できるものが考えられないか。また都道に隣接をしておりますので、都道の歩道の拡幅ができないというのも周辺住民の悩みでありますので、このことについて都と連携をして、何らかの見通しを立てるような、そういったこともお願いをしたいと思って来ました。また、この中には米軍施設として大きなアンテナもありまして、これがなかなか撤去ができない、移設ができないようでもありますので、そのこともあわせて国に要望を一緒にしていただければありが

たいと思っております。

以上、大きく3つに分けてご要望と現状もあわせてご説明させていただきました。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○行政部長 どうもありがとうございます。それでは、知事からお願ひいたします。

○都知事 子育てについては、これまでもしっかりお取り組みをいただき、それでもなおかつ300人を超える待機児童を抱えておられるということで、子育て支援の実施主体がまさしく市でいらっしゃる。直接現状、課題、伺わせていただいたかと思ひます。

今回、子育て支援ということについては、新年度予算でも、また今年度の緊急補正予算でもかなりの思いで額をつけさせていただいたところでございまして、ぜひ有効に活用していただきたいと、このように考えております。地域の実情に応じた施策を展開できるように進めていきたいと思ひます。それには施設の問題と保育士さんの確保の問題、それからそもそもやっぱり私は日本人の意識改革といいましようか、働き方とか、もっと言うならば、これからのイノベーションで、どのようにテレワークを進めていくのかといったようなこと、総合的に進めていかなければならないんだというふうに思っております。

ぜひとも今後ともご協力いただいて、そして待機児童という言葉イコール東京という意味にも使われるかと思ひますけれども、ぜひ現場とそして東京都と連携をとりながら、また国のほうも、今度は育休についても少し延長という形、2年という形になる方向でございまして、そういったところでしっかり連携をとりながら進めさせていただきたいと存じます。

それから、スポーツ関連が幾つかございましたが、これに関して多磨駅の改良の問題があったかと思ひます。鉄道事業者に工事が円滑に進められるように働きかけるなど、市の後押しをさせていただこうと、こう思ひます。それから、多磨駅周辺の道路整備についても、周辺道路の交通の円滑化、そして地域の安全性の向上には大変重要な道路というふうにご認識をしておりますので、事業化に向けて取り組んでいきたいと考えています。

それから、同じく多磨駅の周辺の無電柱化の件ですけれども、これも同様に、これから基本的な考え方として電柱は立てないという、その方針でさまざまな計画をお進めいただきたいと存じます。今、技術革新の真っ只中にこれから入りますので、実際に行うときは数年後になるかと思ひますけれども、そのときはもっとコストを削減してできるようにしていきたいと考えております。制度もちょっともう変わりますから、2.5メートルというこれまでの規制がございましたが、それは外れると考えていただければと思ひます。

それから、オリ・パラ絡みで、スポーツ・文化の振興への支援をという話でございました。今回、新たにラグビーのワールドカップのキャンプ地誘致のための施設整備を補助対象にしておりますので、これも皆様方のキャンプ地誘致を積極的に支援していくこといたします。

それから、19年、20年と各国いろんな方が見えることを想定して、多言語の対応ということで、それに役立つ先進事例であるとか、ICTのツールを協議会や協議会のポータルサイトやフォーラムなどを通じて紹介をしまして、そして市の取り組みを支援させていただこうと存じます。

それから、多摩の文化をPRするというのも、これは私の2020年までの実行プランの中にもしっかりとその項目を設けさせていただいておりますので、また多摩地域で多彩な文化プログラムを展開されますようにサポートしてまいりたいと存じます。

それから、多言語絡みでありますけれども、外国人おもてなしボランティア、語学ボランティアとして育成目標を設けておまして、これまでは3万5,000人ということでしたが、それを5万人にまで拡充しようと考えております。さらに、皆様方との連携を図りながら育成に取り組んでいきたいと考えております。

それから、具体的なお要望としての基地の跡地の留保地、この活用についての支援、協力のお要請がございました。この件については、基地の跡地留保地利用計画、この策定に対しまして、地元の皆様方の意見を伺いながら引き続き対応させていただくということでございます。

それから、これは別途伺っていたんでしょうか。都道の小金井街道の早期の拡幅でございますけれども、これも府中市のお進めになっているまちづくりにあわせて、整備について調整をさせていただきます。

それから、インフラ再整備、これも同じことで、引き続き連携して御市の取り組みについて支援をさせていただきます。

それから、個別の事業に係る財政負担への配慮ということで、先ほどから出ております待機児童解消対策でありますけれども、市町村総合交付金、補正額を含めまして、これを活用して、先ほどからの出ております待機児童対策に資するようにご活用いただきたいと思います。府中の場合ですと、例えば通勤の途中がいいのかとか、色々あろうかと思うんですね、利便性についても。そういったそれぞれの地域の特性を鑑みというのはまさしくそういったことで、やはり遠くにつくっても送り迎えだけでへとへとになるという

ような、まさしく都民ファーストな形でつくらないと結局生かされないということだと思っております。そういった意味も含めまして、総合的に対応させていただきたいと考えております。

何かつけ加えることありますか。

○行政部長 高野市長、何かつけ加えられることとかございましたら。

○府中市長 それぞれに具体的にお答えをいただきましてありがとうございます。我々としては、とにかく絶好の機会をいただいて、2019、2020を迎えたい。市内には外国語大学もございまして、そちらに外国からおいでの方に。

○都知事 どの大学。

○府中市長 東京外国語大学です。

○都知事 ああ、そうでしたか。昔は北区にあったのが府中に来ているのですね。

○府中市長 ですので、ぜひおもてなしをしっかりとやりたいと思っております。そういった協定なども結ばさせていただいているので、ぜひよろしく願いいたします。

○行政部長 よろしゅうございますか。それでは、最後に知事から一言お願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。待機児童問題については、幼稚園の側からのいろいろなサポートもよく市長自身はご存じだと思います。ぜひとも市民ファーストで頑張ってくださいと思います。今日はありがとうございました。

○府中市長 ありがとうございます。

○行政部長 以上をもちまして終了させていただきます。どうもお疲れさまでございました。

(了)

『東久留米市』

平成29年2月14日（火）

14時12分～14時30分

○行政部長 それでは、冒頭、知事から一言ご挨拶お願いいたします。

○都知事 今日はお忙しいところ、わざわざ都庁までお越しいただきありがとうございます。また、都政運営には大変ご理解とご協力をいただき、また、時には野田秘書をかわいがっていただき、ありがとうございます。

今日は、市の抱えておられる課題、そして、将来に必要なこと、そして、都へのご要望を伺わせていただくということで、よろしくをお願いいたします。

都政の見える化を図っておりますので、このやりとりにつきましても、ネットで見える化をしておりますので、ご了承いただきたいと存じます。

東久留米市は、大変交通アクセスがいい、ベッドタウンとして栄えて来られたと認識しております。どうやって持続可能な、成長可能なまちにしていくかというところは、東京都にとりましても重要な課題だと認識しております。

ぜひ忌憚のないご意見なども聞かせていただければと存じます。よろしくをお願いいたします。

○行政部長 それでは、並木市長、ご発言をお願いいたします。

○東久留米市長 それでは、早速、このような機会を設けていただきましたことに心から感謝を申し上げる次第でございます。

今日は、東久留米市民の皆さんの思いを背負いながらお邪魔をさせていただきました。都知事と直接お話ができるという、こういった会はありませんものですから、ぜひまたよろしくお話ししたいというふうに思っております。

まず、東久留米の概要のご説明をさせていただいてから、全体的なお話をさせていただいて、個別の要望という形で進めさせていただければというふうに思っております。

先ほど、持続可能なというようなことで、交通アクセス等もお話をいただきました。池袋から約18分で、準急になりますけれども、東久留米に到着いたします。駅前、すぐのところ、環境省から選ばれました、東京では平成になって初めて湧水を、環境の名水百選ということで選んでいただきまして、本当にこの、駅からすぐのところにもこういった環境があるまちでございまして、市内から湧いている河川が2本ございます。本当に、子

供たちが快適に、夏の涼を楽しんでいるというような状況であります。このようなまちで
ございます。

また、駅から1本、都市計画道路が伸びておりまして、そこから見える富士山が大変す
ばらしくきれいでありまして。

○都知事 電線がない。

○東久留米市長 はいはい。おかげさまでですね、ここは電線がございません。

もう1枚になりますけれども、東久留米は、ダイヤモンド富士というのが大変有名でござ
いまして、これは冬至の時期になりますけれども、富士山に太陽が沈んでいくという、き
れいな光景があります。

私、市報に市長のコラムで、ライジングサンというのを載せているんですが、こちらの
ほうが有名でございまして、太陽が沈んでいくということで、これは全国的にも、また、
世界的にも広めていかなければなというふうに思っておりますので、知事のお力をお借り
できればと思います。

それでは、当市の概要ということで、先ほど、知事のほうから、持続可能ということで
お話をいただきましたけれども、当市、大変すばらしいまちではあるんですが、大変財政
基盤が厳しい、脆弱なまちということで、住宅が密集しておるこのまちということであり
ますけれども、大変個人市民税に依存しているということでありまして、その中でも、高
齢化率も27.03%ということで進んでおります。これは多摩の中では4位に当たるん
でしょうか。民生費も55.1%ということで、法人市民税も3.6%ということで、多
摩26市の中でも大変下位にあるということで、26市中21位でしょうかね。そういつ
た位置づけになっております。高齢化と、また個人市民税ということで、大変厳しいとい
うこともありまして、大変税収的には厳しい状況であるということでございます。

また、その中で経常収支比率においても、この平成27年度の決算でありますけれども、
92.2%ということで、これに関しても26市で21位という位置づけであります。数
年前は、100%を超えるという自治体でありましたので、大改革をして、どうにかここ
まではやってくるのができたんですけども、いまだに厳しい、恒常化しているという状
況であります。財政力指数に関しましても、これは26市中21位ということで、大変厳
しい状況があると。

その中で、市民1人当たりの投資的経費、これが大変厳しい状況なんですけれども、2
6市中26位ということで、投資的な経費に充てられる予算が大変厳しいというような状

況になっているところであります。

それでも、汗をかいて一生懸命この改革をしていかなくちゃいけないということでありまして、財政の健全化ということで、私も市長に就任してから、行革プランというものを示させていただきまして、市民のこともありますけども、職員数を限りなく減らしてきたということで。これは民営化したり指定管理を使ったりということ、また、大変庁内では、職員努力をしていただいて少人数で運営させていただいているということで、多摩26市の中で3位ということでもあります。一時はかなり低かったんですけども、よそも今頑張ってきているので、3位という状況にはなっているということです。

また、国保会計も大変努力をしております、ここに関しましては当市は徴収率が89.16%ということで、多摩26市の中でも2番目という高さであります。また、適正な賦課をお願いさせていただいていることと、健康増進等にも取り組んでいるということで、多摩の中で常態化しております一般会計からの赤字補填、これは市民1人当たりが1万5,044円ということで、多摩26市が平均3万8,980円となっているそうでもありますけれども、一番低く抑えているということでもあります。さまざまな努力をして、大変厳しい財政の中でもありますけれども、進めさせていただいている。

もう一つ、当市で努力しているところでもありますけども、地方創生の関係で、都内で2年、2期連続でしょうか。地方創生の対象事業ということでノミネートさせていただいています。お金がないときは汗をかいていくと、そういうような体制でやらせていただいているというのが現状であります。

全体と言いますと、今、大変厳しい財政基盤のお話をさせていただきました。今回、総合交付金の方も増額をしていただきまして、そういった恩恵を少しずつでも市民の皆様に還元できればなという期待をしているところでもありますけども、先ほどのように大変厳しい財政事情でありますので、都のほうからさまざまな補助事業をいただいているわけでもありますけれども、体力のある自治体と比べますと、私どもは常に全力疾走で、そういった市民サービスを展開しているということでありまして。

○都知事 キャラクターになっているのが。

○東久留米市長 あれがライジングサンの、明るく東久留米市民の皆さんと、厳しくても乗り越えていこうというところです。

そういうような状況でありますので、やはり、交付金に関しましては、そういった厳しい財政事業、また、努力している、そういった自治体にもご配慮いただければなというふ

うに思っているところであります。

個別のお話にさせていただきますと、今、東京都と一緒にありまして、都知事と思いを一つにして、待機児解消ということで当市は全力で今、取り組んでいるところであります。5年間で314名の定員増ということで、待機児童も現状を察しているんですけども、先ほど経常収支比率が大変厳しいというような話をさせていただきました。そのまま、経常経費で3億5,000万ということで、市の負担として上がっているということでもあります。そういった中でも29年度に向けましては、先ほど、私の頭の上ですね、152名、これを進めていくことと、30年度に向けましても待機児童解消策ということで、240名の解消ということで今、計画しております。

去年つくっていただきました、緊急の補助も活用させていただきまして、29年度の待機児童解消のほうの補填にさせていただいているわけでありまして、そういった中で、30年に向けましては、特にこの待機児童解消の中において、私立幼稚園の保育園への転用ということがございます。そういった部分で、これは幼稚園が保育園に変わっていくということでありまして、その移行に関する整備が発生するわけでありまして、ここで余り額は言わない方がいいんでしょうかね。赤いところに書いてある額というのが市の負担になってくるということで、こういった子育て支援策に関しましても、ご支援いただければというふうに思っております。平成29年度の予算、前年からアップしている部分は、当市の場合ほとんどが子育て支援策でありますので、そういった部分においても、ご支援をいただければというふうに思っております。

続いては、フリップはありませんが、これも29年度に予算化しております、これも子育て支援策の中で、これは公共施設のマネジメントの視点も入れまして、老朽化した児童館を、ニコイチにしていくような計画で、29年度新しく設置を、建設をしていく予定であります。

しかし、先ほどお話をさせていただきました厳しい財政状況の中で、本当は環境を配慮いたしまして、太陽光発電、そういったものをつけたかったんですけども、大変厳しい予算の中で断念せざるを得なかった。防災の関係としましても、そういった施設をつくりたい。また、児童館のそばには、災害時に一旦緊急物資を入れる、そういった大きな公園がございますので、そういったバックアップ機能としても、やはりそういった施設を設置することが非常に望ましいなというふうに思っていたところであります。しかし財政が厳しいということで断念してしまいまして、そういったことに関しましても、ご支援いただ

ければというふうに思っております。

3番目でありますけれども、これは当市の東のほうに上の原地区というのがありまして、団地の大きな再生をしているエリアがございます。これから楽しみなエリアで、にぎわいをつくる産業の誘導ということで、企業の誘導も取り組んでいるところでありますけれども、そこにおいて、区画の整備等、また、道路の整備等によりまして、学校施設にフェンス等をつくっていかなくてはいけないと。また、雨水管の切りかえ工事等も発生してまいりますので、東京都においては大きな額ではありませんが、そういった一つ一つをご支援いただいで、地域の活性化、にぎわいのある環境づくりということにご支援いただければと思っております。

事前にお話をさせていただいた関係はそういったところであります。よろしくお願ひします。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からご発言をお願いいたします。

○都知事 大変民間の知恵等も生かして、これまで行革に取り組んでこられたことには心から敬意を表したいと思ひます。そして、その中でも、子育て支援、待機児童対策にも大変果敢に取り組んでこられ、ただ、これは申すまでもなく、環境がよくなれば、さらに待機児童が増えるという、うれしい悲鳴でもあるんですけども、そこは非常に市の財政についても大変負担が大きいことだと、このように理解しております。

そのためにも、今年度の緊急補正予算、昨年暮れにつけさせていただきましたが、有効にご活用いただいているということでもうれしく思ひますし、また、新年度、来年度の予算につきましても、子育て支援の部分は手厚くプラス400億を超える予算もつけております。ここを集中して、やはり今この時期に日本も、ここで手当てしていかないと本当に下げ止まりがきかなくなる。そういう人口動態になろうかと思うので、ここは頑張りどころだと思っております。その意味で、市町村が地域の実情に応じた効果的な子育ての支援、この施策を推進できるように、引き続き、都としてもバックアップをしていきたいと思っております。

それから、前後左右するかもしれませんが、先ほどの新児童館の開設を予定しておられるという話。そこに再生エネルギーの取り組みが、国の支援が終わってしまうということで、さてどうしますか、という話でございます。

私は言うまでもなく、この再生可能エネルギーをもっと日本は導入すべきというか、も

っと活かすべきですし、日本で培ったそれらのノウハウが意外と生かされているのは海外であつたりして、何かよくわけわからない状況。そういう中において、何らかの形で太陽光発電、これは避難所として使うときに有効であると。加えて、蓄電設備が加えてあると、さらに効果があると。それはすなわち、防災力の向上につながるということでございますので、国の事業が終了しますけれども、これにかわる何らかの措置についての検討は進めさせていただきたいと思えます。

ちなみに、この太陽光発電は何キロワットを考えておられるのでしょうか。

○東久留米市財政課長 とりあえず5キロワットです。

○都知事 5キロ、うちと余り変わらないです、そしたら。やるならもっと大きくやられたらどうですかね。そうなるとおつちにかかってくるのかな。

上の原地区のまちづくりについては、これも総合交付金の活用ということが考えられます。地域の特性を踏まえて、そのまちづくりの後押しをするということで、メリハリをつけて、しっかり対応させていただくことといたします。

それから、幾つかのご要望の中で、幼稚園を保育所に変える取り組みでありますけれども、保育所の整備の際の改修費、さっき4、700万と出ておりましたかしら。都は国の補助に加えて、市の事業者の負担を軽減するための支援を行っておりますので、活用していただければと思えます。

以上、大変積極的に取り組んでおられ、東久留米は、池袋から何分。

○東久留米市長 準急で18分。

○都知事 準急で、そうですよね。とても便利なベッドタウンだと思います。ぜひこれからも、市長のように明るく輝く市として頑張っていただきたいと存じます。

○行政部長 何かつけ加えられることとかありましたら。

○東久留米市長 時間大丈夫ですか。

ありがとうございました。大変厳しい財政事情の中でも努力をしているというようところで、市民の皆様もそういったことは理解していただいて、一緒に頑張ってください。ありがとうございますので、そういったところに、また応援をいただければというふうに思っていますし、先ほどの地方創生、東京の中で二回連続ノミネートをさせていただいて、勝ち取ることができたということは、本当に市を挙げての英知を結集しているというふうに思っておりますし、そういった努力を、また、東京都版といいますかね、そういった努力する多摩、もしくは多摩のまち、自治体でも結構ですけれども、そういったところのアイデアをまた

支援する何か制度みたいなものをつくっていただければ、私どもとしてもさらに持続できる、そして発展できる、そんなまちづくりに向けて英知を結集してまいりたいなというふうに思っております。

また、総合交付金に関しましては、やはり、さまざまな財政力、そういったものも踏まえてご支援をいただければというふうに思っております。

○行政部長 それでは最後に知事から。

○都知事 これからも都としっかり連携させていただこうと、このように思っております。よろしく願いいたします。

○行政部長 以上をもちまして終了させていただきます。お忙しい中ありがとうございました。

(了)

『多摩市』

平成29年2月14（火）

14時32分～14時48分

○行政部長 それでは、冒頭、知事からご挨拶申し上げます。

○都知事 本日は都庁までご足労おかけいたしまして、まことに恐縮でございます。このように、また、市長と直接お話をします。そしてまた、多摩についての現状、さらには今後の課題、そして都へのご要望を直接伺わせていただきたいと存じます。

都政の見える化を図っている最中でありまして、この、今日のやりとりも、そのまま中継させていただきますので、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

多摩は、まさしくニュータウンが、今、時代を経て、さまざまな課題を抱えておられるということも承知をいたしております。そういう中で、都と市と連携して何ができるのか。また、新しい予算の編成も終わっておりますけれど、皆様方のご要望、交付金についてはご要望どおりといえますでしょうか、しっかりそれに応えさせていただけるかと存じます。

率直なご意見を伺えればと思います。よろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは、阿部市長、ご発言をお願いいたします。

○多摩市長 本日はお忙しいところ、このような時間をおとりいただき、本当にありがとうございます。感謝しております。

また、小池都知事におかれては、朝からずっとこのような形でヒアリングされていらっしゃると思いますので、お疲れのことかと思いますが、私のほうから、多摩の課題、幾つかちょっと申し上げさせていただきたいと思います。

まず、1つは、やはり、三多摩ということもございまして、多摩格差。小池都知事も掲げられておられましたが、私どものほうでも、やはり東京23区と比べますと、どうしても23区は高い財政力があるということから、ごみの収集における、無料でやられていると。またあるいは医療費等につきましても、子育て、非常に充実した形で無料化政策をとられておりますが、私ども26市の側だけではなく、全国市長会等を通して、やはりこれらについては、国に全国一律で負担していただくのが筋ではないかと申し上げてまいりましたが、やはり、都のほうでも先んじて三多摩等にも目を向けていただけると大変ありがたいと思っております。

そして、2つ目の課題として、先ほど知事にもお話いただきましたが、やはり私ども

のまち、多摩ニュータウンということがございます。また、集合住宅にお住の方が、全世帯の7割を占めるということも多摩市の特徴であります。ちょうど今年で、ニュータウンが開発されてから46年目を迎えます。また、東京都が現在検討を進められておられます都市づくりのグランドデザインにおきましても、多摩イノベーション交流ゾーンとされる構想があるということで、私ども多摩市としても、こうした動きに寄与する取り組みとして、多摩ニュータウン再生などの取り組みをはじめ、多摩センター駅周辺地区の都市再生整備計画であったり、あるいは住宅市街地総合整備などということで東京都と協力しながら都市の魅力を高める取り組みを行ってきております。

ただ、そうは申し上げましても、やはり、かなり広域の、大規模な開発であるということから、地元の自治体だけでは非常に厳しいということで、東京都をはじめ、都市機構、UR都市機構さんをはじめ、皆様方の御支援を引き続きいただきたいと思っております。

そして、私が今日申し上げたい、一番大きなポイントで、ちょっとフリップを持ってまいりました。

多摩市では、現在、スマートウェルネスシティということで、健幸都市、健康の康の字が幸ということで、幸せということであっております。実は私も2期目の選挙のときに、ダイバーシティ、スマートシティ、そしてこのスマートウェルネスシティを掲げさせていただきました。実はこれは、小池都知事が、まさに掲げられている、ダイバーシティ。これと非常にシンクロする政策だと思っております。私も、多摩市がこれを進めることが、東京都の政策をさらに強力に推し進めることになるのではないかと。

実は、多摩市がこのような形で力を入れておりますのは、一つには急速な高齢化があります。このフリップをごらんいただけるとおわかりかと思いますが、ちょっと字が小さいので恐縮ですけれども、平成7年当時は多摩市の高齢化率が、7.7%。当時は東京都全体では13%ですから、多摩市がいかに若いまちだったかということが伺えます。しかし、その後、急速に高齢化してまいりまして、現在、東京都を上回る高齢化ということになります。現在、東京都22.09%ですが、多摩市は25.44%。実はこうしたことも背景にあって、先ほど申し上げたニュータウンの再生、そこはかなり力を入れていきたいというのが私どもの立場でございます。

また、急速な高齢化ということに対応するために、スマートウェルネスシティを掲げますが、まさに、ダイバーシティとシンクロするという。

私どもとして、鍵となるのは健康寿命をいかに延伸していくかということが鍵だと思っ

ております。東京都と多摩市を比較させていただいたときに、いずれも多摩市のほうが現在平均寿命、健康寿命とも若干上回っています。これまで都内で第1位だったんですが、ちょっとこちら第2位になっておりますが、ここでやはり、しっかりと健康寿命を延ばして、鍵となるのはこのフリップでもごらんいただいているとおり、健康寿命と平均寿命の差が、男性の場合は、多摩市で2.92年、女性の場合のほうが実は健康寿命、平均寿命が高いんですが、その差が6.01年となっております。これはどういうことかと申しますと、寝たきり率が低い。つまりですね、要介護認定を受ける比率が低いということが、実はこの年限の差を縮めるということになりますので、私どもの目標としては、健康寿命を高め、平均余命の差を縮めていきたい。そのための取り組みをしたいということです。

私どもとしては、この3月に市民の皆さんと一緒に、このスマートウェルネスシティ、健康都市の宣言を行わせていただき、4月から具体的なプロジェクトに入っております。ライフウェルネス検定など、言ってみれば、市民一人ひとりの老い支度も含めですね、改めて、あらゆる世代の人たちが、自分自身の人生を見詰め直す。これはなかなか行政では今まで取り組めなかった課題でありますけれども、死生観を含め、多くの皆さんに学んでいただくということもあり、全国の自治体として初めて、こういう検定などということにも取り組んでまいりたいと。

それから、がん検診ということで、特に胃の内視鏡検査。これは医師会の先生方とも協力させていただきながら、やはりこれは、50歳というか、これから先、やはり早期検診、早期発見していく仕組みをつくっていききたいと。

それから、介護予防につながるためのフレイルチェックなども、既に多摩市でもやっておりますが、そうした取り組みも積極的に進めていきたい。そして、遊歩道を活用した、これが実はみそなんです、多摩ニュータウンは歩車分離のまちで、本当に安心安全なまちが確保されてます。そうした遊歩道もさらに積極的に使い、まちの観光資源としていきたいと思っております、そういった歩行促進イベント等も開催していきたい。

そしてまた、現在東京都の方で進めていただいている、都営住宅の建て替え等と連動して、周辺環境の整備ということで、これはかなり多額の経費、必要とはなりますが、市民の安心安全と、そして多摩ニュータウンが、やはり、世界に誇り得るまちということから、積極的にペデ等のバリアフリー化、公園の再整備なども進めていきたいというふうに考えております。高齢者のみならず、幅広い年代にアプローチすることで、全国のモデルとなる取り組みを、東京都と連携して推進してまいりたいということで、私どもとして、スマ

ートウェルネスシティの取り組みを強化することによって、本当に全世界にも発信することができる、そうしたダイバーシティの東京というもの、そして、スマートシティ、セーフシティにつながるのではないかと考えておりますので、ぜひご支援よろしくお願ひしたいと思ひます。

○行政部長 どうもありがとうございます。それでは知事からご発言お願ひします。

○都知事 まず、総合交付金の関係でありますけれども、今回、交付金について増額と、拡充をさせていただいたところでもあります。今幾つか具体的なご要望等ございましたけれども、地域の発展を支える、市のみずからの自主的、事実的な取り組みと、そして、それに都が適切な支援を行うと。これが一種、車の両輪だというふうにかけております。そのことを踏まえまして、地域の実情を踏まえて効果的な支援を行うように努めていきたいというのが、まず基本的な姿勢でございます。

それから、幾つかのご要望ございました。最初に、子供の医療費の関係ですね。これについては、医療費助成、子育てを支援する福祉政策の一環として実施をしているものでございます。

それから、メディアなども、よく捉えられる、ニュータウンがだんだんオールドタウンになってというような、いつも、そういった点で取り上げられることが最近多くなっているのかなと思ひますけれども。子育て世代、それから高齢者も安心して地域で暮らせる。そのために、本当にびっくりしました。スマートウェルネスシティと、それからダイバーシティという、同じ発想でこれまでやってこられてるんだなということを改めて感じ入った次第でございますけど。そのためにも、多摩ニュータウン地域再生ガイドラインということで策定をいたしまして、その再生に向けて、地元市の技術的な支援ということなど、取り組みは、加速、促進をさせていただきたいと考えております。

それから、南部地域の病院の話も聞いております。中核病院として、地域医療のさらなる充実を図るということと、先ほどの、まさしくスマートウェルネスシティの基盤となるものだと思いますので、医療と介護が連携した地域包括ケアシステム、この構築に向けまして貢献していきたいと考えております。

それから、モノレールについての話ですけれども、多摩地域の活力と魅力に、どうやってアップしていくかというのは、やはり交通の確保ということだと思ひております。整備効果が高い路線として認識をしておりますので、関係者間で、この多摩都市モノレールの延伸ということについては検討をさらに深めてまいりたいと考えております。

そのほか、今は、小田急の話はよろしかったでしょうか。小田急多摩線の話が、一応前もってお聞きしているんですけども、これで、関係者の私鉄になりますので、都としては、関係者の会議ということで、その取り組み状況を見極めながら、都としての対応ということを見定めていきたいと考えております。

それから、交付金の関係でありますけれども、適切な、都が財政を支援するという、ぜひこれを今後とも御市と連携させていただきながら進めていきたいと思っております。

ヴェルディのほうも頑張っていたきたいと存じます。

○行政部長 市長、どうぞ。

○多摩市長 ありがとうございます。

私ども多摩市、実はハローキティに会えるまちということで、サンリオピューロランドもあり、インバウンド効果もあり、結構、京王相模原線、あるいは小田急多摩線で、多摩センターに来られる方も多くなってきております。実はそういう意味では、まさに知事がおっしゃっているダイバーシティであり、スマートシティ、これも非常に、多摩地域で実現できる都市だと思っております。

また、今、都知事からお話いただきましたように、一方で、地域包括ケアについても、先ほどフリップでござんになっていたように、多摩市が急激に高齢化しているということから、ぜひ多摩南部地域病院を含め、医療支援については、本当に基幹となる病院と、そして、地域の医師会との連携、そして、顔の見える関係ということで、地元の薬剤師あるいは保健師、そして地域包括ケアの拠点になれるところでのケアマネさん含め、しっかり顔の見える関係をつくってもらいたいと思っておりますので、ぜひ一度、多摩ニュータウンにもお越しただいて、現状を見ていただくと、キティちゃんも大歓迎でございますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

○行政部長 よろしゅうございますか。

それでは、最後に知事から一言お願いします。

○都知事 本日はありがとうございました。

待機児童対策等々も直接かかわるのが市であったり、また、介護の部分も直接かかわれるのは市でいらっしゃいますので、しっかりとこれからも連携をとらせていただきたいと思っております。本日はありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終わらせていただきます。 (了)

『国立市』

平成29年2月14日（火）

14時49分～15時05分

○行政部長 それでは、冒頭、知事から一言ご挨拶申し上げます。

○都知事 本日はわざわざ都庁までお起こしいただきまして、ありがとうございます。また、平素よりの都政運営に関して、ご協力ありがとうございます。

また、先月、市制施行50周年をお迎えになったということで、お喜びを申し上げたいと存じます。国立というと、桜やイチョウの時期が特に美しいことでも有名でございますし、文教都市として発展をしておられるということでございます。

本日は、市長から直接、今、市が抱えておられる課題、そして、今後の展望、さらには都へのご要望を直接伺う機会とさせていただいております。

都政の見える化ということから、このやりとりにつきましてはネットで公開させていただいておりますので、ご承知おきをいただきたいと思います。

今後の市の実情をしっかりと伺いながら、振興策などに取り入れるとともに、できることは迅速に実行していきたい、新しい東京をつくっていきたいと考えております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは、永見市長、ご発言をお願いいたします。

○国立市長 国立市長の永見理夫と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日はこのような機会をつくっていただきまして、感謝申し上げます。

小池知事におかれましては、数年前ですか、多摩国体のときに、国立市がウエイトリフティングの会場になりまして、体育館へお越しいただいて、当時私も副市長でございましたので、表彰式のときにお見えになったことを、実によく覚えておりまして。またこういう形でお会いできるとは思っておりませんで、非常に光栄に思っているところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私のほうから国立市の状況と申しますか、課題について、何点かご説明申し上げます。国立市については、先ほど知事がおっしゃられたように、8平方キロ、7万5,000人という小さなまちでございまして、しかも文教都市ということを標榜しているまちでございます。

幸いなことに、住民の方の所得が比較的高いレベルにあるということで、不交付団体に

なっておりますが、交付税のですね。ただし、非常にボーダーで、立川さんとか、府中さんとか、武蔵野さんとかというようなレベルと比べると、非常にボーダーなところだということになります。したがって、実はボーダーのところの不交付団体というのは、極めて財政的には厳しい環境にある。交付団体のほうがずっと楽なところがありまして、常に、そこを意識しながらやっていかなければいけないという、難しさとか厳しさがあるということ、まずご認識いただけたらと思います。

その上で、表を出させていただいておりますので、私のほうで幾つか、市政、財政運営上の課題ということで、ご説明させていただきます。

幾つもの課題はあるんですけれども、1つは少子高齢化という問題でございます。これは、1つは待機児対策の問題、少子化対策ということでの子育て支援というような問題で、1つは待機児の対応というものが大きな課題になっている。

もう一方では、高齢化ということで、私ども22.3%という高齢化率でございますが、私どもの高齢化社会に対する、特に高齢者に対する対応の特徴は、最終ステージまで、家庭で、地域で暮らすということ、これをとことん追求するということをもットーにしております。したがって、地域包括ケアをどう推進するのかというところに、一番の力点を置いてる当市でございます。

幸いなことに、今、日本の中でも、あるいは東京の中でも、地域包括ケア、恐らく在宅療養という側面ではトップクラスにあると自認はしておりますけれども、これから高齢者がどんどん増えていくという中において、地域包括ケアをどうやって、さらに充実していくのかというようなことが課題となっております。

次は、子供の貧困等をはじめとする子供の関係のことを、これは書かせていただいておりますけれども、私の政治信条としては、子供は家庭の環境において不利益を被ってはならないと。したがって、子供の将来が、自分が置かれた家庭の環境、それによって左右されてはならない、それをできる限り均等化する、そういう条件整備を進めていきたいと思っております。

ただし、市町村にとってみれば、貧困の方、あるいは社会的孤立をしている子供、あるいは青年でもいいんですけれども、この方々に、どこにいらっしゃるのか、そして、どういう形で手を差し伸べていくのかという、東京都ですと一つの政策を出しますが、私どもだったら、寄り添って、それをもち上げて、セーフティーネットを作るといような、そういう課題があります。そこへアプローチするというのは、大変な人的パワーと、それ

から日常的な努力、あるいは経常経費がかかる問題がございます。そういうところへ、都政の側からも、もう少し、背中のかゆいところに手が届くようなご配慮がいただけたらというふうに思っているところでございます。

もう1点は、都市農業の問題を挙げさせていただきました。東京都全体から見れば、国立の農業は非常に小さな問題かもしれませんが、防災上の課題、あるいは緑地の課題、そして、自然の課題、そして、それがもたらす多方面の効果、こういうものを考えますと、都市農業というのは決して軽いものではない。ただし、相続税の問題とか、あるいは貸し借りができないというようなことで、営農が非常に妨げられているというところに制度上の課題がありますので、これを何とか突破してまいりたいなというふうに考えているところでございます。

今何点か挙げました。私ども、都市農業の中では、谷保の原風景基金。東京都も確か今年、モデルで農地を買われるというのは、私どもも、既に。

○都知事 やってますね。

○国立市長 ええ、そうですね。集約をして、何とか水田を保全したいということで、既に、谷保っていう地域があるんですが、その原風景基金というのを積みまして、これが、営農が続けられなくなって、例えば亡くなられるという、相続が発生したときには、市に売ってくださいねというような基金を積みまして、特に水田を、生物多様性のもとですか水田を保全していくと、こんなことを進めようとしております。ただ、これも、全ての水田をというわけにはいきませんので、原風景たり得るところというふうに限っておりますけれども。こういうような政策にも東京都とタイアップして進めていけたらなと思っております。

限られた時間ですので、あと少しだけ補足させていただきますと、先ほどの高齢者の問題で、もう1回戻らせていただきます。地域包括ケアを進めている中で、非常に課題は、地域包括ケアがどこまで進んでいるかと、評価する指標が見当たらない。こういう指標が、自分の都市はどの辺にポジショニングしていて、何が、それぞれの都市に課題はあるんですけど、どこが標準値で、どこまで進んでいったら、どこに力点を置いたらいいのかというような、全体を見渡した指標がぜひ、あったら助かるなと思っております。

それから、2点目は、医療の問題ですけれども、在宅療養を進めていく、地域包括ケアを進めるときには、在宅療養、医療がベースになります。そのときに、私ども来年度予算で医療計画というものを、無謀にも市町村レベルで解析して、少し取り組んでみようと思

っております。これは、高齢化が進む。高齢化が進んだときに、高齢者は今後、2025年問題より先に行ってもですね、どのくらい増えてくる、そのときの疾病構造はどうなってくる、そうすると、市内に在宅療養、在宅医療を支える医療基盤はどういう形であらねばならないのかというようなことを分析しようと思っております。

これは、国立市でしかできないことなんですけれども。そういうような基盤を、全都的につくっていくような、一つの働きかけとかですね、そういうものを、ぜひ東京都に、財政面だけではなくて、お願いできたらというふうに考えているところでございます。

短い時間ですので、あとは質疑応答の中でやらせていただけたらと思います。

以上でございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それではまず、知事からご発言をお願いいたします。

○都知事 ありがとうございます。今、地域包括ケアの推進の観点でありますけれども、まさしく、その加齢の度合いであるとかね、病気の有無とか、疾病の度合いとか、それによって、地域包括ケアシステムに、ふさわしいのと、そうでないのと、幾つかあるかと思えます。認知症の有無とかね。それから家庭環境とか。

でも、基本的に私も市長の考え方には賛成で、本まで出しているくらいですので、地域包括ケアシステムを充実させるというのは、病院という環境ではなく、自宅で過ごすということの幸福さ、これをもう少し理解をし、かつ、それにふさわしい制度の設計、充実ということが必要だろうと考えます。そこで、介護予防や、認知症の支援などの中核となる地域包括ケアセンターの機能を強化するといったような形で、今おっしゃったような取り組みへの支援を充実させていくということを考えております。指標づくりについては、どういったことでスタンダードにするのかとか、チェックポイントはどのようなものがあるのかというのを少しもんでいかなければならないかと思っております。

それから、子供の貧困対策というお話で、これもまた、家庭環境によって機会の格差が生じるということは、これはアンフェアだという観点も共有させていただきます。子供の貧困対策というのは、福祉や教育、就労など、総合的な取り組みが必要でございますけれども、こうした課題に取り組んでいかれる市には、自治体には、都としても支援をしていきたいと考えております。

やはり、家庭の経済状況が将来を決めるということであってはならないと思います。でも、昔は、どんなにおうちが貧しくても、頑張った人というのは、結構頑張って、いろん

な功績を残したということもあろうかと思えます。いろんな考え方あろうと思えますけども、色々みんなが、機会是一緒じゃないといけないと思うんですね、チャンスというのはね。チャンスはみんなにあって、成功するかしないかは、それは本人の努力ということなんだらうと思えます。

それから、都市農地の保全でありますけれども、ヒートアイランド対策とすれば、都市農地を、いかにして確保し、緑被率を下げないかというのは、違った観点からも重要なことだと思います。食料安全保障とって、東京都の中で全て、100%などということは到底あり得ないことですが、別の観点から、緑を守るといのは極めて重要なことだと、このように思います。そこで、政策立案と具体的支援の両面から対応していきたいと考えております。

それから、地域の取り組みに対する都の積極的関与ということについて、多摩格差という言葉がございますけれども、この多摩地域の発展というのは、活気ある東京にするためには不可欠な地域でございますので、引き続き、関係の市町村と連携して、積極的に私も関与していく考え方でございます。

そのほか、別途ご要望などもございましたけれども、先ほどの子供の貧困対策についても、市町村総合交付金も活用していただいて、引き続きしっかりと対応するということなど含めまして、ぜひオール東京で、東京大改革と言いましょか、進めていきたいと、このように考えております。

現場のお声を聞かせていただいて、誠にありがとうございました。

○行政部長 市長、いかがでしょうか。

○国立市長 力強いご回答をいただいたというふうに思います。

その中で、幾つか具体的なお要望をさせていただきますと、例えば、待機児対策の問題で言いますと、国立市内にも、東京都が占める、都営住宅等の用地とか、低未利用の東京都がお持ちの用地というのがございますので、ぜひそういうところへ積極的な、認可保育園が設置できるような働きかけとか、場所の提供ですか、こういうことがお願いできたらなということの一つには考えております。

それから、総合交付金の問題が、先ほどお話ありました。それはそれで非常にありがたいお話でございます。都政全般で私どもが感じてることは、東京都、やっぱり大都市事務を抱えていらっしゃると思いますので、どうしても、府県事務といいますかね。いわゆる市町村に対する行政というような部分よりは、大都市事務の部分はどうしても厚いのではないか

なというような、あるいは、どうしても税を取ってますから、大都市事務をやらざるを得ない、首都東京の大都市事務をやらなきゃいけないというような使命があると思いますので、それとあわせて、先ほどおっしゃったように、多摩地域の振興。これは特に少子社会、あるいは人口減少社会において不可欠な要素になってまいりますので、そういうところにもぜひ目を向けていただいて、総合的に東京都全体が、住んでよかったと言えるようなまちにさせていただけたらというのが私の要望でございます。

○行政部長 それでは。

○都知事 それでは、これからも、各自治体の皆様方と、しっかりと現場のお話など、コミュニケーションをよくしながら、東京の様々なニーズですね、地域によって全くニーズが異なります。こういったことに対しまして、都といたしましても連携していきたいと考えております。今日はありがとうございました。

○行政部長 以上をもちまして終了させていただきます。ありがとうございました。

(了)